

# 大分の中世石造遺物

第2集 分布図・地名表編(中)

2014

大分県教育庁埋蔵文化財センター

# 大分の中世石造遺物

第2集 分布図・地名表編（中）

## 序 文

本書は、大分県教育委員会が文化庁の補助を得て、平成20年度から平成28年度まで9ヶ年の計画で実施している「大分県古代・中世石造遺物分布調査」の調査報告書『大分の中世石造遺物 第2集 分布図・地名表編（中）』です。この報告書は、今年度まで行った分布調査を中心とした成果を大分県南西部の分布図・地名表編として刊行するものです。

現在までの6年間に及ぶ分布調査から、大分県南西部では、475箇所におよぶ中世の石造物の所在地が確認できました。本書はそれらを市町村ごとに一覧表にまとめ、それぞれの場所での石造物の概要を簡潔に記しました。今後、刊行予定の大分県北部の分布図・地名表を収録した第3集と、写真・拓本・銘文等を収録した第4集、調査の成果を総括した第5集と併せて大分県の古代・中世石造物の実態が把握できるものとなりますが、本書はその一部として御利用いただければ幸いです。

本書が大分県の古代・中世石造物の基礎資料となるだけでなく、活用することによって、古代・中世石造物に対する認識を深めていただくとともに、さらには郷土の文化財保護の一助になることを願ってやみません。

最後になりましたが、今回の調査は、地元の石造物に誇りをもつ多くの方々からの御教示や、過疎化や高齢化の波のもと、きわめて厳しい状況の中でも管理され続けている方々の御協力なしには成し遂げられなかったものです。御協力いただいた方々に対し衷心より感謝申し上げます。

平成26年3月31日

大分県教育庁埋蔵文化財センター

所長 宮内克己

## 例 言

- 1 本書は大分県教育委員会が平成20年度より平成28年度までの予定で国庫補助を得て実施している「大分県古代・中世石造遺物分布調査」の報告書第2集「分布図・地名編（中）」である。

なお、平成24年度まで、本事業終期については、平成27年度としていたが、現地調査の結果、石塔分布数増加等のため、平成28年度終了予定と変更した。

- 2 本書には、今回の悉皆調査において把握した大分県下西南部の古代・中世石造物の基礎データと位置を掲載している。

なお、本書に掲載したもののうち、主要なものについては平成27年度以降に写真・実測図・拓本・銘文等を報告する予定である。

- 3 34頁から107頁に掲載している分布図に使用した地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平25情複、第651号)
- 4 本書の執筆分担は下記のとおりである。なお、編集は調査担当者が協議して行った。

日田市（小柳和宏）

玖珠町・九重町（原田昭一）

由布市（坂本嘉弘）

竹田市（松本康弘・高橋信武）

## 目 次

I 中世石造遺物地名表	1
II 中世石造遺物分布図	33

# I 中世石造遺物地名表

ここでは、本書で取り上げる大分県南西部である日田市・玖珠町・九重町・由布市・竹田市に所在する475箇所の石造物について、一覧表で概要をまとめている。市町村史をはじめとした過去の刊行物に記載された類例をはじめとして、平成20年から平成25年に及ぶ現地での悪背調査により得られたデータをもとに作成したものである。

一覧表の各項目については、下記の凡例のとおりである。

## 凡 例

- 番 号……………34 ページ以降の分布図の各市町村単位の番号と一致する。
- 名 称……………国県市町村指定の場合、指定名称を優先して採用し、また、過去に名称が確認できるものも優先して今回の名称に採用し、それ以外のものは新たな名称とした。
- 所 在 地……………所在地は一覧表が市町村単位であるため、市町村名を省き、大字以下の地名を採用した。小字が判明しているものや、その場所固有の呼び名がある場合も併せて記載した。
- 造 立 時 期……………平安・鎌倉・南北朝・室町・戦国の各時代で表記し、石塔が出現する平安時代後期を遡るものは古代とし、また、近世でも中世の様相をもつ石塔が残る近世初期の範囲まで、掲載の対象とした。
- 概 要……………立地や歴史的環境、塔形や特徴などをはじめ、特筆すべき点について簡単にまとめた。
- 在銘資料の年号……………元号と併せて、カッコ内に西暦を記載した。石塔群で複数例確認できた場合は、すべて掲載した。なお、各年号に該当する資料が、どれであるかについては、概要の項目でふれている。
- 指 定 区 分……………国・県・市町村単位で「重文・有形」および「史跡」に区分して記載し、石塔群の場合、どの資料が指定物件であるかについてもカッコ内に示した。なお、これ以外でも「国宝・特別史跡」等、特殊な指定の場合も併せて記載した。
- 参 考 文 献……………32 ページに記載した文献一覧の番号と対応する。
- 掲 載 頁……………分布図の掲載ページと各分布図の縦横に8分割した小区画を記載している。
- 塔形及び個体数……………五輪塔・宝篋印塔・宝塔については、各部位ごとの実数を記載し、紙面の都合上、国東塔・板碑・一石五輪塔・無縫塔・角柱塔婆・石幢・石殿については、部材のみであっても実数を記載した。五輪塔・宝篋印塔・宝塔における完存については、部材の一部のみが失われていても、組合せが本来のものと同断できるものは、完存の個体数として認識した。これ以外の塔形については、「その他の塔形」の欄に塔形名と実数を記載した。なお、相輪のように、宝篋印塔や宝塔・層塔など、どの塔形においても可能性をもつ部材である場合、他の部材の存在等考慮して、可能性の最も高い塔形に分類したため、確実とはいえない。また、草むらや竹藪で覆われていたり、一部、地中に存在することが明確な場合等、正確な実数が把握できない場合は、あえて各項目に実数を記載せず、概要においてふれている。

市町村別一覧表

市町村別分布地図

市町村名	掲載頁	市町村名	掲載頁
日田市	2～7	日田市	34・35・37・38・39・40・47・48・49・50・51・59・60・61・62・63・73・74・75・76・86・87・88
玖珠町	8～11	玖珠町	40・41・42・43・44・50・51・52・53・54・55・63・64
九重町	12～13	九重町	52・53・54・63・64・65・66・67・78・79・80・90・91
由布市	14～21	由布市	54・55・56・66・67・68・69・70・80・81・82・83・84
竹田市	22～31	竹田市	80・81・82・83・91・92・93・94・97・98・99・100・102・103・104・107

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在籍資料 の年号	指定 区分	参考 文献	掲載 地図 番号	
1	夜明大神宮五輪塔	夜明町	室町	大神宮境内に五輪塔部材が置かれている。火輪には蓋蓋があり、地輪も1段の段があるが実質かもしれない。				23 H-7	
2	小野殿村石塔群	小栗上 小竹 殿村	戦国	北小野小学校跡地(田安寺)裏の山側に基礎を作り、その上に宝篋印塔などを建てている。その内の1基は徳田山神守藤原義満の墓とされる。また、右手の墓群の中に五輪塔塔がある。	天正14 (1586)		4	23 B-5	
3	竹尾石塔群	小栗 竹尾	室町	山間に広がる溝道沿いに石塔を立て並べている一角がある。板碑には蓋蓋が認められる。				23 B-5	
4	小野殿屋敷五輪塔	小栗	室町～戦国	小野小学校北側にある御堂堂の横に五輪塔部材が置かれている。				23 C-5	
5	老松天満宮五輪塔	大野町	室町～戦国	天満宮参道側に五輪塔部材が置かれている。				23 F-1	
6	大輪橋南墓地五輪塔	越内川	室町～戦国	墓地の中に五輪塔部材が置かれている。				23 E-2	
7	空栗寺石塔群	越内川	室町～戦国	空栗寺境内に多くの石塔が存在する。天文24年の六地蔵石塔は崩壊し持ち込まれたもの。				23 E-2	
8	大御堂五輪塔	夜明 竹丸	室町～戦国	集落の中にある大御堂前に五輪塔部材が置かれている。				23 G-1	
9	小輪橋跡宝篋印塔	夜明小輪	室町	小栗の丘の上にある御堂境内に宝篋印塔の塔と石輪が一部埋まっている。				23 H-1	
10	宝篋寺石塔群	山田	室町～戦国	宝篋寺境内に輪刺の板碑と五輪塔部材が置かれている。				23 G-8	
11	山田板碑(二連碑)	山田	室町～戦国	宝篋寺境内の丘陵にある塔の礎に立っている。すべて板碑で表裏し、下部には地蔵7を彫刻するガンを彫り彫刻しているが、埋まっており詳細は不明。				23 G-4	
12	芦山神社石塔群	小野	室町～戦国	以前は芦山神社の土間にあったとされる石塔群が、現在ははや下った駐車場から30mほど参道を通り石塔に、ばらばらになった状態で散発されている。基礎には「室神」の文字や仏造の小さな仏を彫刻しているものがある。	23 D-6		4	23 D-6	
13	赤の御前堂五輪塔	花月 赤の敷	室町～戦国	御堂周辺に五輪塔部材が置かれている。				23 F-8	
14	鏡源寺石塔群	梨津町	室町～戦国	本堂前に宝篋印塔や五輪塔部材が、本堂南に村家墓地に五輪塔水輪が存在している。				23 F-6	
15	龍川寺石塔群	梨津町	戦国～近世前期	在地土家跡南と赤の敷にある龍川寺の墓地に中世末から近世初期にかけての石塔群がある。最も古い紀年銘は天正12年五輪塔で、他に慶長12年の自然石塔がある。			4	23 G-6	
16	坂井蓮沙門天石塔群	西有田 坂井町	室町	鹿沙門天境内に共有の宝篋印塔が置かれている。また、その周囲には五輪塔部材が点在する。宝篋印塔は蓋蓋が欠け、クラークの伏字を刻む。				23 H-5	
17	鹿沙門天境内に 墓地五輪塔	西有田 坂井町	室町～戦国	丘陵先端の墓地の中に五輪塔部材がある。				23 H-5	
18	下瀬不動堂五輪塔	西有田	室町	小栗の丘の上立つ「不動様」の堂宇前に共有の宝篋印塔が1基立つ。塔身には鳥居四の文字。基礎には文明8年の紀年銘を刻む。	天文8 (1476)		4	23 H-6	
19	上手若宮八幡社 基壇五輪塔	西有田 上手町	戦国	基壇上に五輪塔空蓋蓋が置かれている。				23 H-5	
20	雲峰石塔群	伏木町	室町～戦国	雲峰と呼ばれる御堂の麓に石塔が置かれている。				24 D-1	
21	熊ノ尾塔群	羽田 熊ノ尾	室町	川の筋にある大石の上に置かれている。下扉は欠失している。				24 H-2	
22	北山権現堂宝篋印塔	赤明 北原新町	南北朝	北山権現堂の裏正面やや左手の軸土間に宝篋印塔が1基ある。				30 A-8	
23	近衛神社五輪塔	夜明 近衛新町	南北朝	北山権現堂に縦2m近く、長方形の覆り込みを入れ、内部に7の種子が彫られている。梵字には墨を入れている。				30 C-8	
24	高尾ノ湯供養塔	夜明 高尾ノ湯	南北朝	川の畔にある御堂の裏とされる中に、覆上石輪が1基立つ。やや扁平な方柱状で、顔が丸く彫るので、本堂が置っていたものか。塔身には4面に梵字、正面に暦神2年の紀年銘を刻む。	暦応2 (1339)		4	31 A-1	
25	黒川五輪塔	光岡大才友田字 三郎丸	室町	黒川山麓の中腹の「黒田田」を語る石工石製の岩屋敷の礎とされる。風化少なく、部材完備。水輪に吹き込みはよく重なるだけである。水輪に明治7年の紀年銘。	明治7 (1466)		4	31 B-3	
26	片山黒屋仏	北友田	南北朝	切り立った尾根状の岩を平準に加工し、長方形に一段置ませた中に縦2.1mの梵字(少)を刻彫りにする。梵字は、梵字左右にある。増上には五輪塔部材が彫刻されていないので、もともと蓋蓋は置かれていたものか?	応永3 (1342)		市史録	4	31 A-3
27	慈林寺石塔	北友田	戦国～近世初期	慈林寺境内に六地蔵石塔の蓋蓋が石輪の上に置かれている。				31 A-4	
28	天神社南角石塔群	小栗町	室町	社敷の入口に1基の宝篋印塔が置かれている。その横には五輪塔火輪がある。				31 A-4	
29	吹上地蔵堂上宝篋印塔	吹上	近世初期	地蔵堂の上の扉に宝篋印塔が置かれている。塔身に梵字あり。				31 A-4	
30	友田黒屋佛	友田1丁目	近世前期	台地の崖面に板碑的に彫り彫れた2基(覆衣天)など、20センチ方形～板碑型の石塔と思われる覆り込みがある。				31 A-4	
31	神明宮宝篋印塔	丸山1丁目	室町～戦国	享和2年の石塔の中に宝篋印塔の蓋と石輪がある。				31 A-5	
32	永興寺五輪塔	笠田町	南北朝	大観の建立した永興寺境内にある。地輪に貞観5年の銘を刻む。	貞観5 (1149)			31 A-5	
33	日田神社石塔群	榑町2丁目	室町	神社境内に五輪塔部材と宝篋印塔塔身が点在する。参考文献によれば、板碑もあつたことになっているが、確認できなかった。				31 A-5	
34	岩尾黒屋前五輪塔	笠田町	室町～戦国	岩尾黒屋前に五輪塔水輪が置かれている。蓋蓋が認められる。				31 A-5	
35	笠田六地蔵	笠田町	戦国	赤屋住宅にある。早上部に金剛界四仏と地藏持大日の子が彫られる。年号は永正2年で、遺失層がある。	永正2 (1505)			31 A-5	
36	明王寺石塔群	赤屋2丁目	室町	宝篋印塔の蓋と、遺棄から持ってきたと思われる角柱塔身が境内に立つ。				31 B-5	
37	中野町五輪塔	中野町	室町～戦国	水島路に五輪塔の火輪が近世石塔の上に置かれている。				31 B-5	
38	善念寺五輪宝篋印塔	竹田字 寺町	南北朝	善念寺から明治初年に移設されたといわれる五輪宝篋印塔である。覆上の蓋は壊れて、覆下段の蓋は彫刻の可能性がある。本塔は三層宝篋印塔で、塔身も壊れて、塔内では宝篋印塔の層が他に彫刻が無く、塔身に貞観5年と彫られている。	貞観5 (1147)		4	31 B-4	



番号	名称	所在地	造立時期	概要	在籍資料 の年号	指定 区分	参考 文献	掲載 地図 番号
39	上野町御堂五輪塔	上野町	南北朝～室町	経堂の前の石河原に五輪塔火輪が置かれている。四方門と思われる梵字を縦書きで彫り、				31 C-4
40	上野寺石塔	高瀬 上野町	室町	享徳に永徳4年の法立蓮宗を創り、平成20年に修理し、傾い量が測られている。	長祿4 (1460)	市有形	4	31 C-4
41	永平寺輪石塔群	福原本町 656 輪石	鎌倉～室町	永平寺跡とされる田の一角に、2基の石塔と之に上輪塔等が嵌り込んで置かれている。形跡はそれぞれ元永元年と享徳2年の銘をもち、キリクをもち。	永徳元(111) 長祿2(113)	市有形 (国庫)	21	31 D-5
42	津比神社五輪塔群	石井3丁目	室町	神社跡下の斜めに五輪塔群が並んで置かれている。				31 C-2
43	泉光寺五輪塔	内河原	戦国	境内に五輪塔火輪が置かれている。				31 D-2
44	伊勢湯所五輪塔	高瀬 高平	室町～戦国	神社境内の樹に五輪塔火輪が置かれている。				31 E-4
45	松金石塔群	高瀬 松金	室町	松金の裏面がある台地の先端に角柱形2基が立つ。さらに奥面に五輪塔部材が並んでいる。				31 H-4
46	藤原地蔵尊石塔群	白田町	南北朝～戦国	塚守の中に下手を欠失した塔頭が奉られ、望の外には宝篋印塔などの部材が散在する。				31 A-7
47	陣笠町御堂 五輪塔群	新南田 陣笠町	室町～戦国	陣笠の跡に五輪塔部材が置かれている。				31 A-8
48	元大童壇神社 石塔群	小京原	南北朝	元大童壇境内に1基の宝篋印塔(寛永)と宝篋印塔(寛永)・基礎がある。寛永の方は多身が後加え、塔身と基礎の間に、基礎に墨書などで法立蓮宗を記す。また、別所跡にあった菅原宗朝の墓とされている。	貞和3 (1347)	4	31 C-6	
49	神楽堂塔婆	武取里 天竺ノ 尾	南北朝	現在元大童壇境内に移されているものである。	貞和元 (1345)	市有形	27	31 C-6
50	法皇寺山五輪塔群	百原 法皇町	南北朝～戦国	法皇寺3軒境内に五輪塔群が並んでいる。				31 C-6
51	正風寺輪石塔群 及び唐櫃種子	東来南町	戦国	小高い山頂に唐櫃を、寺内に石仏を築る。その周辺に五輪塔部材が点在する。また、塔の基部に唐櫃の形も見える。	永徳元(156) (建永)			31 C-7
52	本村河内神社 石塔群	天来町 馬場字小村	南北朝～戦国	河内神社境内の大御堂裏に五輪塔など、またその真の石塔面に相輪塔がある。被押塔の背後の丘上には塔があったといわれている。被押塔はすべて北朝期のもの。また、その山頂にあったものを現在地に下したものの、相輪と基礎が無いが、大形の塔である。基礎は河内神社の境内より、唐櫃は塔の基部、この塔頭の基部を記す。被押塔の下に三角交差を持つ。あるは宝篋印塔の部材か。				31 C-8
53	寺山供養塔(宝篋)	天来大字馬原 本村	南北朝	大山川沿いの山の斜面に法皇以前の塔頭などがあるが、その前の方に塔頭の下の五輪塔部材が埋まっている。	貞和5 (1345)	24	31 D-6	
54	本村水源地宝篋	天来町 馬場字志村	南北朝	大山川沿いの山の斜面に法皇以前の塔頭などがあるが、その前の方に塔頭の下の五輪塔部材が埋まっている。				31 D-8
55	横山御堂 角柱塔婆	日高 横山町	室町	大山川沿いの山の斜面に法皇以前の塔頭などがあるが、その前の方に塔頭の下の五輪塔部材が埋まっている。				31 D-6
56	牧原角柱塔婆	大字日高字牧原	室町	15m×14m、高さ約2mの塔頭に上立てられている。横は縦は5mの高さがある。角柱塔婆によって15段の塔頭が並んでいる。角柱塔婆の間に五輪塔が並立している。塔頭は後加えである。角柱塔婆の間に五輪塔が並立している。塔頭は後加えである。		22	31 D-6	
57	川原角柱塔婆群	天来町女子指	室町	川原の境内にある。参考文獻によれば、3層の塔頭は1層を欠けて2層に増もれている。宝篋印塔で、基礎の上に並べて立てられている。2層には四方門の梵字が刻まれている。		24	31 E-8	
58	虎神石五輪塔	天来町女子指 台	室町～戦国	往來道跡にある神社境内に五輪塔火輪が置かれている。				31 F-7
59	比叡塔 (宝篋印塔)	天来大字宇高 朝 倉	室町	台地の斜面に「虎宮」の墓と書かれた宝篋印塔が立つ。塔頭上部は欠け、下部には三角交差のある唐櫃タイプである。		24	31 F-8	
60	塔ノ本自然石塔婆	天来台字宇高 本	鎌倉?	石塔頭部に自然石塔婆が立つが、純然とは無い。				31 G-8
61	花善願堂石塔群	天来町合伊字花 善	室町	鎮座境内に先年の宝篋印塔が立つ。堂宇の南に角柱塔婆部材が埋められている。宝篋印塔塔頭には基礎、阿券時、較蓋、深窓の四角の梵字が刻まれている。		市有形 (宝篋 印塔)	24	31 G-6
62	片瀬古角柱塔婆	大山町西大山 片瀬古	室町～戦国	いまだ谷間に1基の高柱塔婆が立っている。横の突出は無く、彫刻で表す。半分を欠失している。				31 G-6
63	下川原御堂石塔	大山町西大山 下川原	戦国～近世戦国	田舎の山間に築つ塔頭内に、乙輪の塔頭が並んでいる。				31 H-6
64	瀧古石塔群	大山町東大山 瀧古	室町	瀧古の境内に宝篋印塔が1基立ち、その南に五輪塔火輪が置かれている。宝篋印塔の塔頭は後加えである。				31 H-7
65	不動院蔵の院 石塔群	大山町東大山 蔵	室町～戦国	不動院蔵に五輪塔群が埋められている。				31 H-9
66	東光寺石塔群	吉田 東光寺	室町～戦国	東光寺の(鳥居塔婆)に石塔の部材が散在している。				32 A-3
67	塔ノ本宝篋印塔	天来高島		小高い丘の頂に立つ小塔の宝篋印塔で、相輪を欠く。タリクの梵字が唐櫃で書かれている。Hivecode			24	32 C-1
68	高倉むけん堂 石塔群	天来大字馬原 高倉	南北朝～戦国	高倉と呼ばれる崖間に相輪を欠く宝篋印塔が立つ。宝篋印塔が1基あり、彫刻で表す。また、横には五輪塔などの部材が埋められている。	永徳元 (1381)	24	32 D-1	
69	唐櫃五輪塔	天来町高島字 唐櫃	戦国～近世戦国	高島に1基の五輪塔が立っている。横刻で塔頭をなす五輪塔の梵字を唐櫃に記す。				32 D-2
70	高約道郎の板碑群	天来町大字高約	室町～戦国	4基の板碑が、南北に並べられている。いずれも折れており、道原上層によって立てられたものである。				32 F-3
71	出野石塔群	天来大字馬原 出野	室町～戦国	出野石塔群の南側に1基の五輪塔部材が埋められている。				32 F-3
72	飯田五輪塔	天来町高島 飯 田	室町～戦国	飯田の境内に五輪塔の火輪と水輪が置かれている。水輪は大きくて、				32 F-3
73	草三郎蔵地下 五輪塔群	天来大字馬原 草三郎	室町～戦国	風通から川を挟んだ南側の正徳長徳部にある。タマヤの中に五輪塔部材が埋められている。		24	32 F-3	
74	寺ヶ原石塔群	天来大字馬原 寺ヶ原	南北朝～戦国	南寺跡とされる塚にあったが、近き東寺に伴って草三郎蔵合所内に移された。多身の石塔が埋められ、封られているが、本来の形がわからず、塔の形は無い。		24	32 F-3	
75	草三郎大神宮五輪 塔婆と角柱塔婆	高瀬 草三郎	南北朝	大神宮境内にある當地地蔵の塔婆左右に五輪塔婆と角柱塔婆が立つ。五輪塔婆には角柱塔婆の形がある。五輪塔婆は、角柱塔婆の石を削って五輪塔を作り出したものである。また、塔の基部には「永徳元年」とある。また、横には五輪塔などの部材が埋められている。	貞和3 (1347)	市有形	24	32 F-3
76	金ヶ塔石塔群	天来高島金ヶ塔	室町～戦国	塔の基部には角柱塔婆の形がある。五輪塔婆は、角柱塔婆の石を削って五輪塔を作り出したものである。また、塔の基部には「永徳元年」とある。また、横には五輪塔などの部材が埋められている。		24	32 F-3	



番号	名称	所在地	造立時期	概要	在籍資料の 年号	指定 区分	参考 文献	掲載 地図 番号
77	てらん堂六地蔵塔	天来台片打村	室町～戦国	寺縁といわれる民家の庭先に、石製の六地蔵が壁の上に置かれている。地蔵は漆き塗りにされる。			24	32 6-1
78	田代神社五輪塔群	天来町通山字田代	室町～戦国	舞臺の外にある御堂の横に五輪塔を中軸として石塔が並べられている。ほとんどが地盤の凹凸に合わせて置かれている。中に1m前後の五輪の五輪塔を少し置いた坂の途中にある。同神社由来を真ん中に飾り三層の塔を並べている。				32 H-3
79	天来町寺院三尊仏壇(自然石塔)	天来通山天来	室町				24	32 H-2
80	杉河内御堂五輪塔	天来町赤坂 杉河内	戦国	御堂の中に五輪塔五輪塔が置かれている。室内の石仏も古いものか。				H-5
81	どうぼう様石塔群	前津2村水木	室町～戦国	どうぼう様と呼ばれる御堂の横の墓塔の跡まわりに小型の宝篋印塔や五輪塔が並べられている。			16	38 D-8
82	大野老松社五輪塔	前津1村大野	室町	大野老松社跡から南に100mほどの五輪塔五輪塔がある。水塔には「青神如堂」の銘。古く、塔には宝篋印塔の銘がある。	宝篋 (1449)			39 E-3
83	瀧の寺五輪塔群	箕津江村大野瀧の寺	室町～戦国	大野老松社近く「瀧の寺」に五輪塔が数基ある一角がある。中に1m前後の石塔が基礎が6箇所あるので、本来はその上部に乗っていたものもあるだろう。お松社の神前寺の墓塔である可能性が高い。				39 E-3
84	花平観音堂石塔群	丸山町東大山	室町～戦国	観音堂境内に五輪塔群が数基存在している。				39 A-8
85	尾瀬神社五輪塔	丸山町東大山中郷	戦国	境内に五輪塔五輪塔が置かれている。				39 A-7
86	野瀬集会所前宝篋印塔	丸山町西大山野瀬	室町	宝篋印塔は残されているが、彫刻が美しい。				39 B-7
87	雲山法師塔地蔵	丸山町西大山小字雲	南北朝	法師の参道入口に石塔が立つ。H=1.75m。楕圓の塔身で、頭は細まりながら、臺座は側面に4面取りされている。				39 B-7
88	龜岡神社寶篋印塔	丸山町西大山小字龜岡	室町～戦国	新井寺の裏にある丸山山頂部の神社境内に、宝篋印塔群が別荘の土に並べられている。彫刻が美しい。				39 B-7
89	龍蔵寺石塔群	丸山町西大山雲田	室町	本堂裏に宝篋印塔と五輪塔の群れを組み合わせられた塔が3基立つ。五輪塔五輪塔の一つには梵字が西文を刻む。				39 B-7
90	楠木御堂五輪塔群	丸山町西大山楠木	室町～戦国	集会所の中にある御堂の横らに五輪塔群が並べられている。				39 D-8
91	田北越前墓	丸山町 西大山	室町初期	大山が崩壊の直前に立つ田北越前の墓である。天正8年に大友氏に反旗を翻し、天来町五輪で討たれた。墓は宝篋印塔型で、上部には別な宝篋印塔の蓋がある。遺立穴は近年の盗掘で下である。				39 E-8
92	神社神社五輪塔群	前津1村石塔	戦国	神社境内に五輪塔群が点在する。				39 6-6
93	古閑五輪塔群	天来町坂下 古閑	室町～戦国	古閑公民館近くの民家裏に五輪塔群がある。いずれも石の間にあったものを、遺跡を掘る際に現在地に持ってきたもの。空襲犠牲は大型。				40 A-3
94	富ノ尾堂塔	天来五成市 富ノ尾	南北朝～室町	金剛山分霊の台地中央のやや窪みとなっている上立つ。今は上部が1mほどしか見えないが、本来は2mほどある。角柱状で、梵字の部分のみ丁寧に彫刻。頭蓋は中や平らで平らなものである。			24	40 B-2
95	本郷本村舟形塔と五輪塔群	天来本郷本村	室町	崖の途中の平地に並べられている。空襲犠牲とされる舟形塔である。新井の横子石塔群。横には五輪塔群が並べられている。			24	40 B-3
96	本郷御堂と五輪塔群	天来本郷本村	室町	本村の台地の横に立つが、以前の道を作る際に移したものである。横道のどおりした石塔である。数量があるが彫刻が劣る。H=1.31m。西面に五輪塔群が並べられている。			24	40 B-3
97	見所谷宝篋印塔	天来町見所谷	室町	川原の間の山の上立つ。基礎の上に小型の宝篋印塔を二つ重ね、その上に笠、相輪をのせる。塔身の一つは基盤、一つは刻むが四方仏を表す梵字を備く。			24	40 B-2
98	園福寺石塔	天来町柳田	戦国初期	新井寺境内に六地蔵石塔が立つ。地蔵像はレリーフで描かれ、笠には蓮華が表現される。				D-3
99	塚下石塔群	天来町柳田字塚下	室町～戦国	谷川「塚」の谷の中に集まった石塔群。中軸には大きな自然石の塔がある。中軸には大きな自然石の塔がある。				40 B-3
100	出口御堂五輪塔群	天来町出口		出口の集落から南に500mほど谷間に入った御堂(奥山)横に五輪塔群が点在する。基礎と相輪は後述の7層化が美しい。H=1.37mと小型である。				40 E-3
101	御所の谷宝篋印塔	中津江村御所	戦国	奥山から「御所の谷」に面して100m位の石山山麓に、基礎をこしらえて安置する。基礎と相輪は後述の7層化が美しい。H=1.37mと小型である。				40 F-1
102	二又五輪塔群	中津江村御所一又	室町	二又庵の境内に五輪塔群がある。その内1基に応永17年の銘がある。	応永17 (1410)		30	49 3-6
103	小竹倉塔(自然石塔)	上津江村大字川原 小竹	戦国	小竹倉跡地に立つ自然石塔である。前面に御堂(如来像を祀りし、下層には20名の人を祀む。上部が折れているので、本来は蓋が乗っていたものかもしれない。	大永4 (1524)		30	49 H-6
104	小川原神社五輪塔群	上津江村大字上野田 小川原	戦国	神社境内に五輪塔群が点在する。				49 H-8
105	西陸谷堂塔群	上津江村大字野田本郷谷	戦国	ほぼ四角形で中軸の塔が並立する。右側のものは、左側のオリジナルが崩壊したため、後に建てたものという。塔の形とどろから中や上立つたところにある「宮木成義」が水師部の子で、その宮木家の御堂の塔と推定される。	元龜元 (1570)		30	58 C-7
106	先相元五輪塔	上津江村大字野田字中津(通称「先相元」)	室町～戦国	塔大五輪塔3基。すべてばらばらになっており、別所で組み立てられている。西陸谷公理の少し上を、無縁塔道に上り山の中に100m位入ると左側や上方に数基が見える。				58 C-8

塔形及び個体数																			
五輪塔				宝篋印塔				宝塔				圧案塔	証碑	一石五輪塔	佛足塔	角柱塔婆	石標	石殿	その他の塔形
尖塔	空鳥輪	火輪	水輪	地輪	塔身	塔輪	塔身	基壇	基壇	尖塔	塔輪								
	4	13	4	5											1		1		蓮井を持つ笠部 1
																			自然石塔婆 1
	1																		
		1	2		2														
	1	2	2	4															
	6	24	18	8															
		2	3	1															
					1														
														1					
						1	1												
	2	2	2					2											
	7		3	4															
									1										宝篋印塔転倒塔 1
	2	7	2	1															
	1	1	3																笠塔婆 1
	3																1		
	9	1		1	1										1				
						1	1	2	1										
																	1		
	6	2	2				1	1											
		1	3																
							1												
	7	5	4																自然石塔婆 1
	1	1	2	2															
																			笠塔婆 2
	1	2	3	1															

番号	名称	所在地	遺立時期	概要	在籍資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
1	神原石塔群	古津 神原	室町～戦国	五輪塔頂部に径10m程度の平石を敷き、中央に宍の石塔を建て、周囲に石塔脚石を配している。			29	24 E-6
2	山の白濁堂石塔群	戸掛 山の口	戦国	黒瀬川に準ずる石塔群が並列している。中でも、宝篋印塔塔身には刻銘があり、形跡も確認できる。	天明4 (1472)			32 D-6
3	下泊神社宝塔	山崎 下泊	南北朝	文相の山に引揚げる塔として建てられている。塔身に刻まれたと伝えられているが、塔身が失われ、五輪塔火輪を転用している。塔脚の一部のみ残されており、構に置かれている。基壇上に蓮華文が彫り込まれ、また、欄間に彫刻がみえる。	正平21 (1366)		29	32 F-7
4	小田郵便局五輪塔	小田 平通	戦国	商家の庭に五輪塔脚石が置かれている。他所から持ち込まれたものか。				32 G-6
5	中道石塔群	小田 中道	南北朝～戦国	商家の一角に石塔脚石が置かれている。				32 G-6
6	藤原家墓地石塔群	小田 上引治	戦国	買戻された墓地の一角に近世の墓石が並べられており、その中に五輪塔脚石がみられる。				32 G-6
7	平井家墓石塔群	大用 松宿	南北朝～近世初頭	人家裏の五輪塔跡に2箇所に分けて石塔を築いている。南北朝末～室町初期の重刻版地や若干の宝篋・宝篋印塔と50基をこえる戦国～近世の五輪塔脚石が確認できる。				33 B-1
8	飯塚(松宿)と周辺石塔群	大田 松宿	南北朝～戦国	塔高3m、高さ1mの石塔の礎石が並べられており、即ち石塔の両端部は下半が新築し、上半に大きく半円の宝篋印塔が設置されている。			有明寺 (369)	29 33
9	長小野石塔群	山下 長小野	南北朝～戦国	奥の院の最も高い位置の五輪塔に2箇所に分けて石塔が築かれている。中でも西面は南北朝末に建てられたものである。				29 C-1
10	妙心寺鐘	大田 平井妙心	戦国	水田に面した竹藪の中台より上部が保存した石鐘が認められる。中央を差し、六枚環を覆っている。			29	33 C-2
11	浄寿寺五輪塔群	横山 上丁	室町～戦国	浄寿寺境内に石塔脚石が散在する。				33 D-1
12	下塚塚宝塔	横山 下塚塚	戦国	五輪塔跡に単独で存在するが、塔材が壊れかけられている。「菩提史」には名称をめぐって宛の写真が掲載されているが、正確は、現在、実家の敷地に残されている。			29	33 D-1
13	日彌家石塔	横山 下塚塚	戦国	三層塔の人家裏に石塔脚石が確認されている。基礎・礎石とも八角形で礎石には六角彫が施されている。				33 D-1
14	徳心寺鐘石塔群	横山 下塚塚	南北朝～戦国	鐘石跡と伝えられる場所に五輪塔・宝篋印塔・無縁塔をはじめとした石塔群が建てられている。中でも宝篋印塔の礎石に六角彫がみられるものがある。	天正2 (1524)			33 E-1
15	帆足家石塔群	横山 下塚塚	戦国	跡に石塔脚石がみられるが、下塚塚宝塔遺跡から移したと伝えられている。中でも相模川下塚塚宝塔のものである。			29	33 D-1
16	東光寺石塔群	四日市	戦国	境内の庭木の中に石塔脚石が散在する。無縁塔は基礎のみである。				33 F-1
17	四日市石塔群	四日市	戦国	境内の一角に石塔とともに五輪塔脚石・無縁塔・宝篋印塔が置かれている。				33 F-1
18	ガラナマ石塔群	四日市	南北朝～戦国	台地跡に置かれた小僧の彫立に五輪塔を中心として100基をこえる石塔群が存在していた。この地点を平祐23、24年頃に大分県建設文化財センターが調査調査し、調査後、現地に立てている。近年、工業団地造成に際して破壊されたものである。				33 C-1
19	蓮行寺五輪塔	四日市	戦国	境内の庭木の中に五輪塔脚石が散在する。他所から持ち込まれたものである。				33 E-7
20	泉正寺石塔群	四日市	戦国	境内に石塔脚石が散在するが、他所から持ち込まれたものである。				33 F-1
21	徳心寺石塔群	戸部	室町～戦国	横瀬川に、釈迦三尊の梵字種子をおき、宝篋印塔があるが、蓋と塔身は別材である。このほかにも、宝篋印塔の跡の中に戦国期の石塔脚石が認められている。			29	33 F-1
22	森家宝篋印塔	山田 九日市	南北朝	商家の軒下に向かって宝篋印塔の礎石が置かれており、当初から破壊して立てられていたことが想定できる。大工の構構には彫刻・彫刻・彫刻・彫刻の梵字が確認されている。			29	33 F-1
23	藤原寺石塔群	山田 九日市	戦国	境内の堀込込みの中に2基の石塔がある。1基は六角形で上部に六枚環を覆っている。他は上は尖った。宝篋印塔を置いている。もう1基は六角のみであり、四隅に塔脚石が施されている。			29	33 F-1
24	宮ノ原石塔群	小田 上引治	南北朝～戦国	野原の裏に五輪塔脚石が認められている。なかでも石塔の目につく大形の五輪塔火輪・水輪は南北朝初期に建てたと考えられるものである。			29	33 F-1
25	上引治公長塚石塔群	小田 上引治	室町～戦国	公長の塚に建てられた石塔と五輪塔跡が認められている。これは北近所に位置する「フクゼ」の「タイノヱ」と呼ばれる寺跡から持ち込まれたと伝えられている。			29	33 G-1
26	下泊神社所在瓦塔所在地	小田 上引治	南北朝	地元で「タテ」と呼ばれる一角があり、ここから神社が移転されたと伝えられている。			29	33 G-1
27	妙見陣屋石塔	山田 早水	戦国	飯沼山麓の杉林中に高さ2.3mの自然石があり、上部に鐘型にのりかゝる梵字碑と、その下の礎石が認められている。このほかにもこの石塔跡に五輪塔脚石が認められている。	弘治2 (1550)			33 G-1
28	田中家鐘室石塔群	横山 中	室町～近世末	軒下を欠く鐘室の室初期の宝篋印塔と宝篋印塔室2基が公長塚の一角に建てられている。其の内の宝篋印塔塔身には奥の院の梵字種子がみられる。				33 F-2
29	宮地神社石塔	高	戦国	東方に石塔脚石のみが認められている。六面塔に六角彫が施されている。他の塔材が全くみられず、他所から持ち込まれたものと考えられる。				33 D-3
30	玄淵院宝篋印塔	高 平原	近世初	玄淵院の山門跡に存在する梵字の宝篋印塔である。塔身に梵文がみられ、高瀬寺の宝篋印塔の複製品と見られるとされている。	慶安3 (1650)		29	33 D-3
31	大塚公長石塔群	帆足 大塚	鎌倉～戦国	公長塚の境内に鐘室～高元朝初期の角柱塔の2基ありと戦国期の五輪塔・鐘室が認められている。				33 E-3
32	宝篋印塔(坂口)	岩室 坂口	南北朝	穴井塚に存在する梵字の宝篋印塔である。扇形に彫られており、塔身に公長塚の石塔の梵字種子が写し移り込まれ、また、刻銘もみえる。	応永7 (1524)		29	33 F-3
33	横瀬寺石塔群	横山 上田町	南北朝～戦国	横瀬川に架かる橋の五輪塔跡と宝篋印塔跡が認められているほか、堂前に鎌倉末～室町初期の彫刻が全行柱の地盤に認められている。				33 F-3
34	中塚公長塚石塔群	横山 中塚	南北朝～戦国	近世資料に準ずる石塔脚石が散在する。ほとんどが戦国期の小形石塔であるが、中には梵字種子を大きく刻み彫りした幅10cmを測る大形の宝篋印塔もみられる。				33 G-3
35	谷口五輪塔群	山田 谷口	戦国	山中の杉林に散在しており、その背後に五輪塔の跡が認められている。				33 G-2
36	玉屋ヶ茶屋五輪塔	山田 谷口	戦国	境内に月輪と梵字種子が見える五輪塔火輪が一点置かれている。他所から持ち込まれたものか。				33 G-2
37	浄寿寺石塔群	横山	戦国	境内の庭木の中に石塔脚石が散在する。角柱塔としたものは、角柱の礎石のみである。一基に彫刻を彫刻したものである。				33 F-4

塚形及び個体数																		
五輪塔				宝篋印塔				宝塔				国史塔	板碑	一石五輪塔	八角塔	石柱	石殿	その他の塔形
完存	空塔	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	空	塔身	基礎	基壇	完存							
1	6	1	5															1
2	4	4				1	1	1	1									
		1									1							
1	1																	
2	4	4	3															
		2																
2	2	1	1			2	3	3	3									
5	10	6																
																		1
4	3	5	2															
											1							
																		1
2	2											1						
1	2	2																1
1	1																	1
1	1																	
		2	2									1						
		1		1				1	1									管理塔 1
								2										
											1							2
4	5	2	1															
																		1
2	3	1																
1						1		2										
																		1
																		1
1																		
								1										
																		1
																		1
5	2	1	1					2	1									
2	4	1																1

番号	名称	所在地	遺立時期	概要	登録資料 の年号	指定 区分	参考 文献	掲載 地図 番号	
38	長寿陀石塔群	塚脇 長野	戦国	境内に石塔が並べられている。五輪塔や宝篋印が多く、いずれも戦国期の小塔のものである。荒廃の宝塔は一石で造られた角宝篋である。				33 6-3	
39	広妙寺板碑	山田 寺村	南北朝	真鍮製の板碑に上部が折損した板碑が立てられているが、碑身に刻銘が残る。	高和 2 (1346)		29	33 H-3	
40	舟岡山層塔	大隈 舟岡山	南北朝～室町	舟岡山山頂の宮壇上に石塔とともに建てられており、初層輪郭と屋根・船首の一部が覆われている。横の石階の下にもこの層塔の遺構が覆かされている。			29	33 6-3	
41	倉庫石幢	大隈 倉庫	戦国	田圃溝に面した大神宮の前の溝防岸の基に単独で立てられている。基から上部を欠くもので六角形の基盤には六地藏を雕刻している。			29	33 6-3	
42	大隈元親公臣筋石塔群	大隈 元組	戦国	公臣筋の筋に石塔が並べられているが、その中に石幢並・鳥居の組合せと五輪塔が加えられている。石幢鳥居には六角形に六地藏が雕刻されている。				33 6-3	
43	安楽寺陀石塔群	大隈	南北朝～戦国	塔身を欠く宝篋印塔や、金剛界四仏の梵字種子を塔身に篆彫りする五輪塔、バツの梵字種子を篆彫りする板碑など、南北朝期の石塔群をはじめ戦国期までのものが散在する。	文和 3 (1354)		29	33 H-3	
44	高野起神社宝篋印塔	大隈	南北朝	境内に灯籠の型の基礎として、宝篋印塔の基礎と基礎が再利用されている。日印の元大抵八層の宝篋印塔基壇と四段式の塔身である。				33 H-3	
45	紙園並塔婆	大隈 金梨院	鎌倉～戦国	紙園寺境内に存在していた石塔を後の期に移し集めたものである。鎌倉末～南北朝前期の笠塔婆塔身の上に戦国期の五輪塔火輪や宝篋印塔を載せている。笠塔婆塔身には倉敷野四仏の梵字種子が大きく篆彫りされている。			29	33 H-3	
46	石幢(金梨院)と 廣助石塔群	大隈 金梨院	戦国	水田に一角に5～6mの一角があり、町指定の石幢の周囲に石塔が置かれている。石幢は基を欠くほかは完好であり、卒に梵文が刻まれている。このほかにも石幢基座のみが残されている。	永正 2 (1505)		町指定 (塔)	29	33 H-3
47	露家五輪塔群	大隈	戦国	人家の前の庭やブロック塀上に五輪塔が置かれている。				33 H-3	



番号	名称	所在地	造立時期	概要	在籍資料 の年号	指定 区分	参考 文献	掲載 順 番号
1	曹南宝塔群	松本 藤曲	戦国	神社境内に2基の宝塔塔基が露出されている。うち1基には銘石が埋められる。	文亀元 (1501)		6	33 6-2
2	足守神社石塔群	松本	南北朝～戦国	本願寺境内に宝塔塔基が露出しているが、発見できない。また、本願寺の境内に塔基2基、石塔群が露出している。			6	33 6-4
3	環翠寺塔基と 周辺石塔群	松本 笠原	平安末～戦国	環翠寺境内に宝塔塔基が露出している。塔基の周囲には石塔群が露出している。また、塔基の周囲には石塔群が露出している。また、塔基の周囲には石塔群が露出している。			6	33 6-4
4	宝国寺塔 宝八幡塔	松本 笠原	戦国	宝八幡の塔基が露出している。塔基の周囲には石塔群が露出している。また、塔基の周囲には石塔群が露出している。			6	33 6-5
5	八幡堂東塔・ 西塔及び周辺 石塔群	松本 笠原	南北朝～戦国	八幡堂の塔基が露出している。塔基の周囲には石塔群が露出している。また、塔基の周囲には石塔群が露出している。	宝徳3 (1415)	奥有形 (国東 塔・板 橋)	6-32 6-33	6-5 6-5
6	松本家墓地 五輪塔群	松本 川上	戦国～近世初期	松本家墓地の南に五輪塔群が露出している。墓塔の間に土付けられた柱礎ももつものである。			6	33 6-5
7	松本自然石塔群	松本 本町	戦国	道路脇に露出している自然石塔群である。形状は自然石塔面に、円筒内に瓦葺い三層の塔身と銘文が刻まれている。	享徳2 (1529)	奥有形 (法野塔 群)	6	33 6-5
8	病生家石塔群	松本 見良野	戦国	病生家の境内に一石五輪塔をはじめとして五輪塔立五輪塔が築かれている。			6	33 6-5
9	宝内寺石塔群	松本 川上	戦国	宝内寺境内に石塔群が露出している。無縫塔は五輪塔群の塔基のみが残る。			6	33 6-5
10	川上角塔と周辺 石塔群	松本 川上	南北朝～戦国	川上角塔の塔基が露出している。塔基の周囲には石塔群が露出している。また、塔基の周囲には石塔群が露出している。			6-19	33 6-5
11	下庄具野原塔と 周辺石塔群	松本 下庄	南北朝～戦国	下庄具野原の塔基が露出している。塔基の周囲には石塔群が露出している。また、塔基の周囲には石塔群が露出している。			6	33 6-6
12	清原新石塔群	松本 津佐	戦国	石塔群が露出しているが、埋もれているものも少数存在するものと思える。			6	33 6-6
13	龍門寺石塔	松本 龍門	戦国	龍門寺の境内に石塔群が露出している。塔基の周囲には石塔群が露出している。また、塔基の周囲には石塔群が露出している。			6	33 6-6
14	野倉山神社塔 小室下殿塔	松本 野倉	戦国	野倉山神社の境内に石塔群が露出している。塔基の周囲には石塔群が露出している。また、塔基の周囲には石塔群が露出している。	明徳6 (1497)		6	33 6-7
15	横瀬宮石塔群	松本 津佐	戦国	横瀬宮の境内に石塔群が露出している。塔基の周囲には石塔群が露出している。また、塔基の周囲には石塔群が露出している。			6	33 6-6
16	日ノ道石塔	松本 日ノ道	戦国	日ノ道の塔基が露出している。塔基の周囲には石塔群が露出している。また、塔基の周囲には石塔群が露出している。	文明9 (1477)		6	33 6-5
17	本村角石塔	奥野 本村	近世初期	本村角石塔の塔基が露出している。塔基の周囲には石塔群が露出している。また、塔基の周囲には石塔群が露出している。			6	33 6-3
18	本村石塔群	奥野 本村	戦国	水廻り川に囲まれた一角に石塔群が露出している。			41 41	41 41
19	下庄五輪塔	松本 下庄	戦国	下庄の境内に五輪塔が露出している。塔基の周囲には石塔群が露出している。また、塔基の周囲には石塔群が露出している。			6	41 41
20	上庄五輪塔	石田 上庄	戦国	上庄の境内に五輪塔が露出している。塔基の周囲には石塔群が露出している。また、塔基の周囲には石塔群が露出している。			6	41 41
21	上庄石塔と周辺 石塔群	石田 上庄	戦国	上庄の境内に石塔群が露出している。塔基の周囲には石塔群が露出している。また、塔基の周囲には石塔群が露出している。			6	41 41
22	足立堂五輪塔	引治 高辻	戦国	足立堂の境内に五輪塔が露出している。塔基の周囲には石塔群が露出している。また、塔基の周囲には石塔群が露出している。			6	41 41
23	引治石塔群	引治 本町	戦国	引治の境内に石塔群が露出している。塔基の周囲には石塔群が露出している。また、塔基の周囲には石塔群が露出している。	延徳3 (1491)		6	41 41
24	城部家墓地 宝印塔	町田 川東	戦国末～近世初期	城部家の境内に宝印塔が露出している。塔基の周囲には石塔群が露出している。また、塔基の周囲には石塔群が露出している。			6	41 41
25	松本寺塔基と 周辺石塔群	野上 北原	戦国	松本寺の境内に石塔群が露出している。塔基の周囲には石塔群が露出している。また、塔基の周囲には石塔群が露出している。	天正11 (1583)	奥有形 (津野塔 群)	6-19	41 41
26	野上落石塔と 周辺石塔群	野上 町田	戦国～近世初期	野上落石塔の塔基が露出している。塔基の周囲には石塔群が露出している。また、塔基の周囲には石塔群が露出している。	応永18 (1411) 応永21 (1414)	奥有形 (野上塔 群)	5-6	41 41
27	野上落石塔と 周辺石塔群	野上 町田	戦国～近世初期	野上落石塔の塔基が露出している。塔基の周囲には石塔群が露出している。また、塔基の周囲には石塔群が露出している。			6	41 41
28	寺田造修塔と 周辺石塔群	野上 寺田	戦国末～近世初期	寺田造修塔の塔基が露出している。塔基の周囲には石塔群が露出している。また、塔基の周囲には石塔群が露出している。	元亀2 (1571) 天正2 (1574)	奥有形 (津野塔 群)	6	41 41
29	國清寺造修塔	野上 寺田	戦国	國清寺の境内に造修塔が露出している。塔基の周囲には石塔群が露出している。また、塔基の周囲には石塔群が露出している。			6	41 41
30	國清寺造修塔	野上 寺田	戦国	國清寺の境内に造修塔が露出している。塔基の周囲には石塔群が露出している。また、塔基の周囲には石塔群が露出している。	元亀4 (1573)		6	41 41
31	野上石塔	野上 町田	戦国	野上石塔の塔基が露出している。塔基の周囲には石塔群が露出している。また、塔基の周囲には石塔群が露出している。			6	41 41
32	藤原宝印塔	野上 藤原	近世初期	藤原家の境内に宝印塔が露出している。塔基の周囲には石塔群が露出している。また、塔基の周囲には石塔群が露出している。			6	41 41
33	滝上石塔と周辺 石塔群	野上 藤原	近世初期	滝上石塔の塔基が露出している。塔基の周囲には石塔群が露出している。また、塔基の周囲には石塔群が露出している。	長禄2 (1458)	奥有形 (石塔 群)	6	41 41
34	滝上朝倉宮石塔群	野上 滝上	南北朝～戦国	滝上朝倉宮の境内に石塔群が露出している。塔基の周囲には石塔群が露出している。また、塔基の周囲には石塔群が露出している。			6	41 41





塔形及び個体数																				
五輪塔				宝篋印塔				宝塔				重葺塔	板碑	一石五輪塔	兼持塔	角柱塔婆	石椁	石殿	その他の塔形	
売形	空海輪	火輪	水輪	地輪	売形	和輪	笠	塔身	基礎	基礎	売形	輪	笠	塔身	基礎	基礎				
2	1		1	1		1							1							
1	5	6	7	7	1	1	2													
			1				1											1		
6	4	3	3	1						1	2	2								
19	6	26	1																	
	1																			伏見15基以上
	2																			伏見100基以上
	1	3																		
	1									2	1	2								笠塔婆1
2	1	2	1	1																
																				1
5	6	10	4			1	1	1	1	1	3	1	1							
			1																	
2	1		1	2																
1																				
1			1																	伏見10基以上
2		2	2									1								
		2	3	2																
1																				
		3	1			3	2				1	3	2							3
1	20	20	20	20		1	1					1	1							
	1	1																		
											3	1	1	1						笠塔婆1
	7	13	10	7		1	2	1												
						1														
		1	1																	
1		1	2									1	1	1						1
2	2	2	2	2																
	2					1	1										1	1		
1			3	1	1						1									
		1	1	1																
		1	1	1			1													
																				1

番号	名称	所在地	造立時期	概要	発掘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
37	中洞神社	庄内町 洞 中洞	南北朝	中洞中洞の南側に立つ。樹の道は長狭山への参道として長狭山頂まで使用したとの伝説がある。高さ22cm、幅64cm、厚さ35cmで、表面に数層厚大目、裏面に金塗大目の積層を有する。踏石型で周囲の樹木が伐採され、周辺部が消失する。		県有形(遺跡)	H-23	43 H-2
38	山井石塔群	庄内町 山井	室町～戦国	大分川に架かる菅野橋から中洞集落に向かう途中の山井集落の道沿いに花笠形の入り口の奥面に石塔が並んでいる。				43 H-2
39	宇南五輪塔群	庄内町 宇南	戦国	宇南から水尾に掛ける市道沿いに五輪塔の群が並んでいる。				43 G-3
40	宇南天満社五輪塔群	庄内町 宇南	戦国	入貫社境内に石塔の群が折れた鳥居の跡に並んでいる。持ち込みであろう。				43 G-3
41	東家路石塔群	庄内町 西内	戦国	水田の畔の畦畔部に石塔が並んでいる。周辺から集めたものか不明。				43 G-3
42	東家北五輪塔群	庄内町 東家	戦国	庄内から西内にかけて並んでいる。集めたものか不明。				43 G-2
43	甲斐田西第1石塔群	庄内町 甲斐田	戦国	甲斐田市の西側、宇南に掛ける行違谷の近辺に石塔群が点在する。				43 G-3
44	甲斐田西第2石塔群	庄内町 甲斐田	戦国	甲斐田市の西側、宇南に掛ける行違谷の近辺集落内に石塔群が並べられている。				43 G-3
45	蓮上寺跡石塔群	庄内町 蓮上	戦国	旧蓮上210号線沿いにあった寺跡跡の跡地に甲斐田石塔群がみられる。				43 G-3
46	甲斐田市北第1石塔群	庄内町 甲斐田	戦国～近世初期	甲斐田市の東側、宇南に掛ける行違谷の近辺に石塔群が点在する。				43 G-3
47	甲斐田市北第2石塔群	庄内町 甲斐田	戦国～近世初期	甲斐田市北の東側の近辺に石塔群が点在する。				43 G-3
48	甲斐田市北第3石塔群	庄内町 甲斐田	戦国～近世初期	甲斐田市北の東側の近辺に石塔群が点在する。				43 G-3
49	甲斐田市北第4石塔群	庄内町 甲斐田	戦国～近世初期	甲斐田市北の東側の近辺に石塔群が点在する。				43 G-3
50	甲斐田市南第1石塔群	庄内町 甲斐田	戦国	甲斐田市南の東側の近辺に石塔群が点在する。				43 G-3
51	甲斐田市南第2石塔群	庄内町 甲斐田	戦国～近世初期	甲斐田市南の東側の近辺に石塔群が点在する。				43 G-3
52	甲斐田市南第3石塔群	庄内町 甲斐田	戦国～近世初期	甲斐田市南の東側の近辺に石塔群が点在する。				43 G-3
53	甲斐田市南第4石塔群	庄内町 甲斐田	戦国	甲斐田市南の東側の近辺に石塔群が点在する。				43 G-3
54	甲斐田市北第5石塔群	庄内町 甲斐田	戦国	甲斐田市北の東側の近辺に石塔群が点在する。				43 G-3
55	甲斐田市南第5石塔群	庄内町 甲斐田	戦国～近世初期	甲斐田市南の東側の近辺に石塔群が点在する。				43 G-3
56	甲斐田市北第6石塔群	庄内町 甲斐田	戦国～近世初期	甲斐田市北の東側の近辺に石塔群が点在する。				43 G-3
57	甲斐田市南第6石塔群	庄内町 甲斐田	戦国～近世初期	甲斐田市南の東側の近辺に石塔群が点在する。				43 G-3
58	寛勝寺の宝篋	庄内町 寛勝	近世初期	宝篋の蓋を覆っている。蓋面に刻み込まれた文字がある。		県有形(宝篋)		43 G-3
59	富士石塔群	庄内町 藤原	戦国	富士210号線の由布市駅前付近の交差点から南東方向に約100m進んだ左手に結合した石塔が2基並べられている。				43 G-3
60	藤原寺石塔群	庄内町 藤原	戦国	1世紀に築かれた藤原寺の境内に石塔群が点在する。				43 H-4
61	神原塔遺跡	庄内町 神原	南北朝	塔高2.1mを測るが、頂上部に切り込みがあり、本来は塔が覆っていたことが推定できる。塔身ももろく、正面にカンマンの梵字を大きく刻み込んでいる。	応永元(308)	県有形(塔遺跡)	S-11 -23	43 G-4
62	出雲神社塔	庄内町 出雲	南北朝	旧10号線沿いの出雲社の境内に残されている。上部が欠けが壊滅したの残存部分で大きく崩壊している。地盤下に礎石群がみられる。	応永6(1329)			43 G-4
63	西郷宝篋と周辺石塔群	庄内町 大船	鎌倉～戦国	西郷の南側山頂の頂上に塔身が点在。塔身ももろく礎石の崩壊部分を中心に10基の瓦葺塔が立ち並ぶ。宝篋の塔身の四方に並列した大目石を並べて、宝篋は二層塔で、中央下部に小さな塔頭を有し、寶篋四方にも塔頭を有する。	建永3(1336)	県有形(塔群)	S-11 -23	43 H-5
64	小野寺石塔	庄内町 大船	戦国～近世初期	遠東寺奥の小野寺の石塔の礎に石塔がみられる。				43 H-5
65	大船石塔群	庄内町 大船	戦国～近世初期	庄内から長瀬・久々に掛ける市道沿いに近世五輪塔を中心とした石塔群がみられる。				43 H-4
66	時松池地帯石塔群	庄内町 時松	室町～戦国	池畔の共同集落内に石塔が点在している。				43 F-6
67	時松池北地帯石塔群	庄内町 時松	室町～戦国	池畔の共同集落内に石塔が点在している。				43 F-6
68	長狭東御堂塔	庄内町 西長狭	南北朝	長狭寺の境内に立つ五輪塔の塔身が壊滅した跡の遺構である。1基は瓦葺、他は瓦葺の半分で欠け、塔身の基部から礎石が推定でき、塔身の欠けが大きい。		県有形(塔)	H-23	43 F-5
69	行願寺五輪塔	庄内町 長狭	戦国	行願寺境内に1基のみ五輪塔が点在している。				43 G-6
70	中宿石塔群	庄内町 中宿	戦国	近世の石塔群に属する。塔身の基部のひとは仏舎の礎石がみられる。				43 G-7
71	下笠石塔群	庄内町 下笠	室町～近世初期	五輪塔、宝篋が12基以上ある。宝篋ももろく、本来、各所にあったものを1983年この場所に集め直された。				43 H-8
72	向陽田第3石塔群	庄内町 東長狭	戦国	向陽田第1石塔群の150mの山道沿いに石塔が多数並んでいる。				43 F-6
73	向陽田第1石塔群	庄内町 東長狭	室町～戦国	向陽田第1石塔群の150mの山道沿いに石塔が多数並んでいる。				43 F-6
74	向陽田第2石塔群	庄内町 東長狭	室町～近世初期	向陽田第1石塔群の150mの山道沿いに石塔が多数並んでいる。				43 F-6
75	三重野寺石塔群	庄内町 東長狭	南北朝～戦国	結城の集落の山頂にある石塔群で長狭寺と伝説されている。六形に五輪塔を模倣し、中央に宝篋を有する。この宝篋は和風の塔の下から出土したもので、本塔は由布市の菩提院に所蔵した昭和33年(1958)の宝篋であったものと考えられる。この宝篋は多く生じた三層塔に属する石塔。			23	43 G-6

塔形及び躯体数																				
五輪塔				宝篋印塔				宝塔				四角塔	板碑	一石五輪塔	無縁塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形	
塔身	塔身	火輪	水輪	地輪	塔身	塔身	塔身	塔身	塔身	塔身	塔身	塔身	塔身	塔身	塔身	塔身	塔身	塔身	塔身	
														1						
	4	8	8	8																
	1	1																		
		2		1																
	3	3	6	6							1				2					
	3																			
	2	2	1								1									
	2		2	1																
	2	3	2																	
	1	1	1	1																
	2	2	3	2																
	1	2	1	1																
		1	2	2																
		1	1																	1
	1		1							1										
		2																		
			1																	
	2	5	3	6						1	7	4	5							
					1					1					1					
			2			1														
					1															
		1	1								1									
			2																	
																				笠塔婆 1
															1					
10										2										
	2									1										
										1	3	3	2		3					
			2																	
	1	3	4	1		1					2	2								
		2	1	1						2										
		1																		
	7	9	8	8		1	3													
10										2										1
	5	5	5	5																
	4	1	20	9		2														
											1	1	1							
9	19	14	15	7						1										

番号	名称	所在地	遺立時期	概要	在籍調査の 年号	種別 区分	参考 文献	掲載 地図 番号
76	川蓮堂塔 及び五輪塔群	邑内町 福山	南北朝～戦国	狭間町谷地区から邑内町大蔵地区に続く麓麓尾路沿いの南側山林の尾根上にある。現在は草が茂り全体的には崩壊しているが、10数基の宝篋と40基以上の五輪塔が立ち並び、宝篋には文和・応永年間、五輪塔には永承元年の銘がある。	文和2(1352) 応永6(1401) 永徳元(1381)	異形形 (宝篋) (五輪 塔)	5-11 23	F-6
77	廣徳寺宝塔	狭間町 荒瀬 池ノ上	室町～戦国	境内に近世の石塔群とともに宝塔が1基立てられている。宝塔の上は平突き、塔身に梵字がみえる。			28	F-8
78	蘇鉄寺石蓮堂塔と 石塔群	狭間町 蘇鉄 大塚	鎌倉～戦国	蘇鉄寺の石塔群は狭間町五輪塔群と同規模で立並ぶが、集積されている。その現状の母体は、本堂西・山門(鐘樓)と本堂の南・山門東の鐘樓南側・寺入口の蓮池沿いの4箇所に分かれて残されている。本堂裏には元永2年銘をもつ浮雲の宝篋をきき、宝塔4基、五輪塔4基が立てられている。また、本堂と山門の間に木相輪を欠つた宝塔中、五輪塔が石塔と一緒に並んでいる。また、山門外側には、多くの経幢・宝篋の銘が積み上げられている。	寛政2(1830) 天明6(1826) 文政6(1824) 享和2(1812) 天保2(1832) 天保2(1836)	異形形 (宝篋)	5-7-2 31	F-7
79	鬼瀬店の石塔	狭間町 鬼瀬 商店	戦国	鬼瀬から邑内町に架かる石橋沿いに立つ。周囲はかつて養蚕・採炭・店舗が盛つたと伝えられるため、「店の九地蔵」と呼ばれている。中台は地元の多乳岩な凝灰岩(スガメ石)であるが、他の部分は安山岩である。年号には天文24年の塔が残る。	天文24 (1555)		28	F-8
80	鬼瀬神社 一石五輪塔	狭間町 鬼瀬 商店	室町	鬼瀬社の拝殿と社殿の間の北側に一石五輪塔が1基残されている。				F-8
81	鬼瀬寺菩提内 石塔群	狭間町 鬼瀬 商店	戦国～近世初期	宝篋から明末まで続く集積地に、五輪塔と宝篋のそれぞれの部材が組み合わされた石塔が一つ並ぶが、塔身は近世初期のものが多い。				F-8
82	閉口石塔群	宗明町 西口 上段門	南北朝～戦国	宝篋の由緒に室町初期の塔碑をはじめとした石塔群が並ぶ状態で残る。宝篋1基の1面は片光で、もう一面は相輪部分に空丸輪が盛る。			31	F-8
83	西条寺石塔	狭間町 谷中 寺	室町～戦国	虎澤源水探訪館沿いにある寺院で、近年復元した。石塔部材が境内に散見できる。				F-8
84	白岳五輪塔群	狭間町 谷中 寺	室町	山王川を遡り、白岳上と下をななる遊歩道に五輪塔部材が置かれていた。				F-8
85	白岳遊歩道塔	狭間町 谷中 寺	室町	山王川に流れ込む谷川の崖面に龜を刻み込み、2基の宝篋を並べている。白岳上と下を結ぶ遊歩道に並ぶ。			31	F-8
86	高野瀬地内石塔群	狭間町 谷中 寺	室町～戦国	高野瀬水鏡池沿いにある共同墓地で、石塔部材が境内に散見できる。			31	F-8
87	大日石塔群	狭間町 谷中 寺	室町～戦国	高野瀬水鏡池沿いの黒木家の庭先に宝篋(大日輪)があり、その周辺に五輪塔が立ち並ぶ。			31	F-8
88	馬籠石塔群	狭間町 谷中 寺	室町～戦国	大分川の支流である山王川沿いに谷津平野が広がっており、その一角に明3年建立の宝篋がある。宝篋に立ち並び塔は、組合せが異なるものが多い。			31	F-8
89	堂立寺石塔群	庄内町 龍泉 寺	戦国～近世初期	龍泉の真宗大谷派堂立寺の境内に五輪塔群が数存在する。持ち込まれたものが多い。				F-6
90	山口石塔群	庄内町 七股 山	戦国～近世初期	庄内町の石塔群に隣り、火輪・塔輪は真宗の石塔に使用。塔身は高野山の南麓で、境内と別所を結ぶ遊歩道沿い。				F-2
91	中塚石塔	狭間町 田代 中塚	室町	中台が損傷し修理。田代半次郎では過去の石塔輪。	明治2 (1867)	異形形 (塔輪)	25	F-1
92	下米跡五輪塔	狭間町 赤井 下米跡	室町～戦国	大仏の宝篋をきいた石蓮堂を中心とした五輪塔の火輪などの部材が集められている。				F-1
93	下米跡地蔵堂 石塔群	狭間町 赤井 下米跡	室町～戦国	地蔵堂前に宝篋が1基あるが、組み合わせが異なる。そのほかにも石塔部材が数存在する。				F-1
94	下米跡石塔群	狭間町 赤井 下米跡	室町～戦国	塔身の中口の入口に石塔が建てられているが、組み合わせは本来のものではない。				F-1
95	観世寺石塔群	狭間町 赤井 下米跡	室町～戦国	塔身には「南無大観世菩薩」とあり、高野山に多数の石塔造物が数存在する。				F-1
96	三郎五輪塔	狭間町 三郎 池	室町～戦国	集積地には「南無大観世菩薩」とあり、高野山に多数の石塔造物が数存在する。				F-3
97	権禪寺住持墓 石塔群	狭間町 高野 池	戦国～近世初期	集積地の裏山に歴代住持の墓塔があり、その中に塔輪を欠く2基の宝篋印塔が並んで残つ、残りは残らないが、全体的に塔輪が長く、近世の可成りが多い。			25	F-3
98	権禪寺石塔群	狭間町 高野 池	室町～戦国	集積地に石蓮4基あり、1基に天文12年銘があり、他は近世。石蓮に五輪塔の火輪。半室裏に高野池の塔が2基ある。	天文12 (1586)		5-25	F-3
99	盧堂神社 宝篋印塔	宗明町 北方 北方	戦国	妙見神社に祀る高野の石蓮に宝篋印塔が1基単独で残っている。塔輪上部の石塔と宝篋を欠いている。			28	F-2
100	曾根崎印宝塔	宗明町 北方 北方	戦国	曾根崎印の東南隅にある。相輪を欠く、空丸輪塔の形を呈している。塔身は宝篋である。	天明8 (1478)		28	F-2
101	田中野石塔群	狭間町 鬼瀬 田中野	室町～戦国	村中を通る集積地に近世の石蓮・塔身があり、互換して宝篋印塔や五輪塔の部材がみえる。				F-1
102	柏野寺おおよび 周辺石塔群	宗明町 向原 柏野	戦国	永享年銘をもつ高さ2.45mの塔身の石蓮の塔身沿いに石塔群が数存在する。火丸宝篋で、塔身の保存も良好であるが、中台は高木蓮堂が残り、後部の相輪の可能性もある。	永享6 (1566)	異形形 (石蓮)	7-28	F-1
103	上市佐藤家 石塔群A 上市佐藤家 石塔群B	狭間町 狭間 上市	室町～戦国	集積地内に五輪塔・宝篋・角宝塔が30基単独立並び、周縁にはその部材も散見する。おおよそ2の塔以上の塔が想定される。				F-1
104	上市佐藤家 石塔群B	狭間町 狭間 上市	室町～戦国	水田裏の境内に近世を中心に1つに並び残る。いずれも塔身が異なるが、塔身のものは近世である。				F-1
105	狭間氏墓塔・ 五輪塔群	狭間町 狭間 上市	南北朝～戦国	鎌倉から室町・戦国にかけて狭間地帯を統治した狭間氏の墓地と伝えられ、20数基の五輪塔が立並ぶ。中でも3基は異形形文化に特徴されている。周辺にも多数の五輪塔・宝篋印塔・宝篋の部材が散見または積み上げられ、100基を超える可能性があり、この地域では最大規模である。	南光2(1345) 白河2(1851) 享和2(1812) 永享5(1565) 元文2(1545) 享和3(1522)	異形形 (五輪 塔)	5-7-12 28	F-1
106	上市墓塔内五輪塔	狭間町 狭間 上市	戦国	新幹寺西側の近辺から現在までの集積地に五輪塔の部材が残されている。				F-2
107	龍祥寺墓塔内五輪塔	狭間町 狭間 上市	南北朝～近世初期	龍祥寺の本堂内側に歴代住持と長寿者の墓塔がある。その中に大型の五輪塔を中心とした小型の五輪塔・角宝塔等が並んでいる。大型の五輪塔は狭間氏五輪塔群のものと同形ない。				F-2
108	龍祥寺境内五輪塔	狭間町 狭間 上市	戦国	龍祥寺境内に5基の石塔があり、内4基は観音堂の西側にある。この中で高さ2.54cmで一番高い石蓮の墓塔に「永享五年壬戌仏堂開創」との銘が刻まれている。	永享5 (1562)		28	F-2
109	下市願成寺石塔群	狭間町 狭間 下市	戦国～近世初期	龍蓮堂の「下市集積地の中央にある観音寺の集積地内に、近世銘もあり、その一角に相輪を欠いた。宝篋が5基並ぶ。				F-2
110	下市願成寺石塔	狭間町 狭間 下市	戦国	下市の龍祥寺の末寺である願成寺の境内に立つ石塔であり、紀年銘をもつ。塔に五輪塔が置かれている。	天文13 (1585)		5-7-28	F-2

塔形及び備体数																						
五輪塔					宝篋印塔					宝塔				覆塔	板碑	一石五輪塔	無縁塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形	
尖塔	空身輪	火輪	水輪	地輪	尖塔	輪軸	笠	塔身	基礎	寛窄	總輪	笠	塔身									基礎
20	20	20	20	20							10						1					
											1											
10	30	30	30	30							5	4	4				2			1		
												1								1		
																	1					
	6	6	6	9			3	3														
1		2	1			2								2								二道板碑1
1		1	3																			
	1	2		1																		
	2	2	2	1																		塔屋宝塔
2	10	10	10	10																		
	11	25	28	19		4	2	2			1											
	2	2															1					
	2	14	8	12		2																1
	1	5						1														
		2									1	1										
	4	2	3	3			3	3	3							2						
	3	6	4	3		1	2	1	1													2
1	1	1																				
		6	1	2	2		1	2														
		1						2														1
						1																
1												1	1	1	1							
		1	1			1								1								
																						1
5	15	15	15	15		8	8	8	8													
	1	3	3	1		2	2															
20	30	30	30	30	5	10	10	10	10		5	5	5	5	5							
		1																				
12											5											
											2											1
	1	1	2			5																
1																						

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在籍資料の 年号	指定 区分	参考 文献	掲載 地図 番号
111	下市北五輪塔群	狹野町 狹野 下市	戦国	矢野池いに展開する下市集落の北側に広がる水田の畔上に五輪塔群が築かれて いる。				44 E-7
112	下市石塔群	狹野町 狹野	室町～戦国	中近世の御殿跡の市場であり、下市の中央部にある。宝篋印塔は半壊されて いる。				44 F-7 44 F-2
113	向原神社石塔	狹野町 向原 向原	戦国	向之原神々に入る道邊の下の池の石塔に石塔群が組み込まれている。				44 F-7
114	鶴田石塔群	狹野町 狹野 鶴田	室町～戦国	大川川沿いの集落である鶴田地区の中心部にある。小型の五輪塔。半壊の群が 組み合わされ、積み上げられている。				44 F-2
115	鶴田石塔群	狹野町 狹野 鶴田	近世初期	大川川沿いの集落である鶴田地区に集から続く集落沿いにある。頂部は式子、 表裏には内口が彫刻されている。				44 F-2
116	鬼地御堂仏	狹野町 鬼地 鬼地	室町	有明神宮神の奥の奥庭に御堂が残り込まれ、その中に御堂仏が彫り込ま れている。1号塔には3体の仏像、2号塔には2体の観音と宝篋印塔が彫り込ま れているが、石塔がもろいため修復している。		7-28		44 F-2
117	元宮石塔群	狹野町 元宮 元宮	南北朝～戦国	元宮の入口に群像があり、その周辺に石塔が立ち並んでいる。入口に近い宝 篋の基礎には塔も刻まれている。数は多く、全てを数えることはできない。	永徳元 (1391)	7-31		44 F-1
118	田の小野石塔群	狹野町 元宮 北原	南北朝～近世初 期	田の小野地区の中央北側に群像があり、塔群を欠く宝篋印塔を中心に周辺に多 くの石塔が並んでいる。草に覆われ、積み上げられているため数えは困難でき ない。				44 F-1
119	定円寺石塔	狹野町 元宮 元宮	室町～近世初期	定円寺本堂の前にと輪が1基立つ。他に本堂百脚に五輪塔と文字を刻む宝篋の 塔がある。			21	44 F-2
120	北原石造佛壇塔と 周辺石塔群	狹野町 元宮 北原	室町～近世初期	長尾原寺の墓域内に無蓋塔の「北原石造佛壇塔」があり、その周辺に石塔が群 を立している。この場所はかつて地蔵堂と呼ばれる庵が存在したとの伝承があ る。無蓋塔は約150cmで、彫り込んでいる。	享徳2 (149)	歴史的 (佛壇 塔)	7-12 F 2	44 F 2
121	市場石塔群	狹野町 元宮 市場	室町～戦国	北原を横切る道に約20m入った互輪の塔の宝篋印塔と、奥が削れた丸まった 石塔がある。宝篋印塔の塔身には仏像が彫刻されており、内1番は若い塔身 の上文化文様(181)彫の塔身が解されている。		3'		44 F-7
122	坂本家古置 石塔群	狹野町 元宮 向原	戦国～近世初期	元禄年間の塔が群る墓地内に石塔群がある。全体的に造りが小さく、後世に 新たに組み合わされている。				44 G-1
123	崖尾原石塔群	狹野町 岩 明田	戦国	山田地区と田の小野地区を結ぶ崖尾原路沿いに平成5年(1993)の調査結果で確 りされた石塔群がある。				44 G-1
124	山田六地蔵石塔	狹野町 山田	戦国	山田地区の東端入口に六地蔵塔を持つ石塔がみられる。	大永5 (1525)	31		44 G-1
125	山田公園縁 五輪塔群	狹野町 山田	戦国	山田地区公民館前に五輪塔の群が築かれている。				44 G-1
126	浄水寺の石塔	下市町 浄水寺 浄水寺	室町～戦国	浄水寺(山前御前)境内に四角の石塔が単独で立てられている。		寺有形 (石塔)	23	52 A-6
127	高津原石塔群	下市町 高津原 高津原	室町～戦国	新緑野から奥田原原に通じる旧道沿いである小さい神社の境内に石塔群が群 を立する。				52 I-5
128	寺小野第1石塔群	下市町 五ヶ葉 小野	戦国	小野区から奥田に通じる旧道沿いにある石塔群で、道沿いに近江村と前にあ る。寺小野の町名から、かつて寺院が存在していた可能性が高い。				53 A-3
129	寺小野第2石塔群	下市町 五ヶ葉 小野	戦国	小野区から奥田に通じる旧道沿いにある石塔群である。鎌倉、遠東寺(超言堂 、宝篋、塔5ヶ葉の安置寺から移動したと伝えられており、この地の可能性が 高い。				53 A-5
130	風の木石塔群	下市町 五ヶ葉 風の木	戦国	近現代の墓地内に石塔群が群を立する。				53 A-5
131	室小野石塔群	下市町 五ヶ葉 室小野	室町～戦国	御鳴整備で周辺集落が大きく変化した。石塔群は彫られているものも含め ると、確認できるもの5箇所ははるものと思える。地盤に陥があるものも 含む。	応永5 (1398)	5-23		53 A-5
132	磯石橋・五輪塔群	下市町 磯石 磯石	戦国	鞆原から野津原今平に通じる道路の途中にある保地区の石塔群。5塔の五輪塔が 群像と伝承。				53 B-7



番号	名称	所在地	遺立時期	概要	在籍資料の 年号	指定 区分	参考 文獻	掲載 地図 番号
1	入山公園	久住町 大岡山	近世	開業三代主中川氏遺（入山）の墓所。大岡山の中腹標高1400mほどの場所に建つ。墓碑の形式でおぼろげにみられる。墓陣の背後に薄雲の北を高く		指定外	18	H-4
2	最勝寺縁石塔群	黒入町 山中	長瀬	南北朝前期、建立していた石塔群跡を、地味を併せて遺し、1ヶ所にまとめ、現在の形となった。総高約120cmの五輪塔には火輪・水輪が残存がみられている。		指定外	14	G-8
3	水口墓地五輪塔	黒入町 水口	戦国	水口興隆から100mほど山に入った場所に墓場が形成され、その中心位置の穴跡した五輪塔が1基ある。			53	E-2
4	妙賢寺塔	黒入町 上田北	戦国	妙賢寺の本堂と普賢堂の間に石刻とともに建つ。両塔共に縁石が埋められていない。			53	E-2
5	石ノ原石塔群	黒入町 石原	戦国	妙賢寺の北東の奥手に並立2基と宝篋印塔の塔身一基が埋められている。			4	F-1
6	下竹五輪塔	黒入町 下竹	戦国～近世前期	高野玄が二又に内かう溝の守手の田んぼ跡に建つ。1mあまりの石の上の五輪塔の穴跡を置く。文字の跡は残っていない。			53	C-4
7	飛竜野宝塔	黒入町 下田北	戦国～近世前期	飛竜野遺跡の手前手前にある宝篋印塔の跡に、神護寺とともに建つ。遺刻が刻まれた宝篋印塔の塔身がある。			53	C-4
8	乙姫石塔	黒入町 藤田	戦国	藤田の地蔵堂の北の平土路の道の脇に方形塔身の石塔が建っている。宝篋印塔、字が刻み合わされ、その間に破損した痕跡、中央がある。			4	G-3
9	田北墓地石塔群	黒入町 新田	戦国	伊勢家墓地の山腹に建つ。田北興隆、田北康定、田北康隆及び田北清隆の墓と伝わる。宝篋印塔の塔身に「田北十洲興隆 日向國橘 天正六年」等の銘、玉篋印塔には「永徳 丙午 高野」等の銘がある。	永徳1(1561) 天正6(1578)		17	F-2
10	真法院の五輪塔 残欠	黒入町 高院院	鎌倉～戦国	高野宗の遺跡に地蔵とともに建つ。ひとつは水輪・地輪の大きさと、残欠に刻まれた文字「水輪はも・ラ・パン・キーク」等から、鎌倉～室町期の塔と推定される。		市有形 (五輪 塔)	14-17	E-3
11	那須家宝篋印塔	黒入町 藤田	南北朝	那須家宅の西側に建てられた宝篋印塔の塔身ととも建つ。水輪・地輪の大きさと、残欠に刻まれた文字「水輪はも・ラ・パン・キーク」等から、鎌倉～室町期の塔と推定される。			14	E-2
12	高野家石塔群	黒入町 藤田	南北朝～戦国	高野宗の用人石塔に建つ。本町は高野宗があり、その間に石塔群が建てられたといわれている。現在、お堂跡は西側の窪地となっており、その西側に宝篋印塔、地輪、水輪等、一石五輪塔が建っている。			14	F-3
13	屋後石塔	黒入町 屋後	戦国	高野宗をくまの地蔵ととも建つ。字「高野」に刻まれている。永正12年(1515)の銘をもつ。宝篋印塔、それ以下は角つくり、中央に宝篋印塔を刻んでいる。	永正12 (1515)		14-37	F-7
14	曾根家墓地五輪塔	黒入町 下田北	戦国～近世前期	曾根家墓地の中心に建つ。山腹の上の近世の五輪塔の塔身に五輪塔の穴跡、火輪がある。			53	G-2
15	松田寺の石塔	黒入町 沢水	戦国	沢水の集落北はずれ、右山の中程石塔に建つ。穴跡である。宝篋印塔は内円式火輪塔と推定される。字「下田北、高院院に穴跡、二基を推し、字に「大永入」(大永五郎宗子)とあることから、享徳5年に築かれたものと推定される。	大永8 (1528)	市有形 (石塔)	14	H-1
16	新田野家の竹田 五輪塔群	黒入町 沢水	南北朝～戦国	五輪塔群が築かれた跡に、積み重ねられた。黒入町に刻まれた文字をみる必要がある。		市有形 (五輪 塔)	14	H-1
17	春家草堂五輪塔	黒入町 沢水	戦国～近世前期	春家の宅に建てられた五輪塔の火輪と水輪が埋められている。			53	H-1
18	辻宝篋印塔	黒入町 辻	戦国	工藤家宅の跡地に建つ。工藤家の墓数は「メヤシ」のみ、高野寺の塔と伝わる。塔身に文字あり。「妙心寺の塔、の刻がみえる。相輪は後装である。			4	H-1
19	冬田の宝篋印塔と 周辺石塔群	黒入町 黒門	南北朝～室町	冬田の宝篋印塔は少し二つたところのクグ平の先に建つ。宝篋印塔が穴跡は210cmほどある。		市有形 (宝篋 印塔)	4	H-2
20	黒口天満社 五輪塔群	黒入町 月形	戦国～近世前期	天満社遺跡右側の竹林の中に、一字一石塔(人形石塔)とともに、五輪塔が建っている。			53	H-2
21	長湯地蔵堂 及び石塔	黒入町 長湯	鎌倉～戦国	高さ2m、幅3mほどの大きな石塔に建つ。天正、水月観音の塔身と大正、新築の宝篋印塔が埋められている。南北朝のものと考えられる五輪塔は、地輪に文字を刻んでいる。		指定外	14	H-3
22	観音堂石塔群	黒入町 長湯	戦国～近世前期	観音堂の石塔を建てた石塔に建つ。宝篋印塔の穴跡に五輪塔の穴跡がある。			14	H-3
23	須原神社宝篋 印塔	黒入町 須原	戦国	神社の右側に石刻とともに建つ。相輪を欠く穴跡である。			14	H-4
24	須原石塔群	黒入町 須原	戦国	神社の東側の須原神社の墓と建つ。穴跡に刻まれている。穴跡に石塔がみられる。石塔は基礎は埋まっているが、八角の前面に六角塔と二基を半円彫りする。			14-37	H-4
25	後山2号宝篋印塔	久住町 久住	戦国	後山家宅の山腹に建つ。字には地蔵に建つ。			5	H-5
26	後山1号宝篋印塔	久住町 後山	戦国	後山家宅の裏の一角上の山の麓に建つ。字には、遺跡の遺跡の上の穴跡を置く。その中に文字を刻む。相輪が方形のものもある。			5	H-8
27	古澤家の石塔と 縁石	久住町 久住	戦国	宝篋印塔の穴跡に建つ。総高273cm。享徳4年(1531)の銘あり。水輪は西角つくり。塔身に刻まれた文字は、その中に金剛寺の石塔の字を刻む。その下に大きな石塔を刻む。石塔群を築いた。その他、宝篋印塔・宝篋印塔がある。	享徳4 (1531)	市有形 (石塔)	5-18	H-1
28	安達屋墓地五輪塔	久住町 戸方	南北朝～戦国	安達家代々の墓場に建てられた五輪塔が埋められている。下の階には宝篋印塔を3基刻まれた法蓮寺の塔身がある。			61	H-2
29	清元寺宝篋印塔	久住町 中道	戦国～近世前期	中道の清元寺跡を築いた跡に建てられた五輪塔の穴跡に建つ。元々は清元寺があったとされる場所である。相輪以上は穴跡、塔身に宝篋印塔の穴跡を置く。その中に文字を刻む。			1	H-2
30	堀川宝篋印塔	久住町 久住	室町～戦国	堀川の石塔を建てた五輪塔に建つ。宝篋印塔に刻まれている。享徳2年(1456)の銘あり。宝篋印塔の塔身に「余」とある。地蔵は五輪塔の穴跡に建てられた。宝篋印塔の塔身に「高野」の文字を刻む。総高124cm。	享徳2 (1456)		5	H-1
31	鎌倉石塔	久住町 鎌倉	中世	久住の町が町に約け、鎌倉神社の手前の遺跡に石塔に建つ。宝篋印塔の穴跡を置く。字には「高野」。相輪は六角塔と八角塔の塔身を半円彫りする。字には「高野」。			6	H-3
32	西法寺塔	久住町 丸山	室町	西法寺跡の跡地に建つ。総高274cm。塔身に宝篋印塔を有し、宝篋印塔を二基に上、宝篋印塔は穴跡。宝篋印塔は穴跡。		市有形 (宝篋 印塔)	18	61
33	丸山石塔群	久住町 丸山	戦国～近世前期	丸山の石塔を建てた五輪塔に建つ。享徳2年(1456)の銘あり。宝篋印塔の塔身に「高野」の文字を刻む。その中に宝篋印塔の穴跡を置く。その中に宝篋印塔の穴跡を置く。その中に宝篋印塔の穴跡を置く。			61	H-2
34	東光寺石塔群	久住町 丸山	室町～戦国	東光寺遺跡(市指定)が設置されているお堂の前の田の間に、石塔や石塔群が建てられている。			61	H-2

塔形及び體体数																				
五輪塔					宝篋印塔					宝塔				基壇塔	一石五輪塔	佛造像	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形
瓦葺	空屋葺	火輪	水輪	地輪	瓦葺	相輪	笠	塔身	基礎	瓦葺	相輪	笠	塔身							
																				基礎1
14	8	10	8	16	1															
			1	1	1									1						
	2							1												
	1												1	1						
																				1
	2	2			1						3									
	3	1	5	2																
							1	1	1											
	1	1	1	1			1		1							2				板碑1
																				1
	2	2	1	1																1
	4	2	9	3																
		1	1																	
					1															
	2	1			1	2														
	1	6	3	7																
	8	1	1	3							1					1				佛堂1區
			1				1	1	1											
					1															
	4	4	3							2	1	1								1
						1	1													
						3	3	2												
			1		1	1	1	1	1											1
	19	4	7	4																
					1															
					1															
											1									1
																1				
		2		5																1



塔形及び個体数																					
五輪塔					宝篋印塔				支塔				圓形塔	板碑	一石五輪塔	無縁塔	角柱塔婆	石椀	石段	その他の塔形	
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪									笠
		1					1														
	16	11	7	5		3	1	1	1	1		1	1	3			3				
	14	8	11	3	18																
					1																
	4		3		2	1	1	1													
	6	13	15	17	3						2										
	2	1	2	1	1							1	1	1							笠形塔1
					1	2															
																					1
		1		1								1	1								
																					1
	4	2	1	1	1						2										
						1	1														
																					伏魔1
												1	1	1							
	1	2	2																		
				1	1																
																					1
		1	1																		
																					伏魔20
	2		2	1																	1
																					伏魔1
	3	4	4	2								1	1								
	5	17	24	20	22	2															2
			5	2	5																
		1	3									1									1
	1	2	2																		1
																					2
																					伏魔8
																					伏魔17
																					1
		1		1																	伏魔

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在籍史料の 年号	指定 区分	参考 文献	掲載 地図番号
70	住蓮家前宝印塚	久住町 白戸 津屋	戦国～近世初期	戦国～近世初期			1	66 A-8
71	藤島公園五輪塔	久住町 白戸 藤ノ屋	戦国～近世初期	戦国～近世初期				69 A-1
72	海福屋御塔塚	久住町 白戸 産屋敷	戦国～近世初期	菅生家墓の下の田の間の竹林の中に建つ。宝印塚の塔身以下は壊れており、不整。			1	A-1 69
73	あとう塚宝印塚	久住町 白戸 赤尾塚	戦国～近世初期	あとう塚という層層を記つた石塚の中にある。両側突起がなく直立している。			1	A-1 69
74	熊田の口石塚	久住町 白戸 熊田の口	戦国	高田家の墓庭に建つ。大正7、8年まで白舟山社の西正寺納めにあつたと伝わる。形は不整。礎石は八角形である。				59 A-4
75	上畑の釈迦堂宝印塚 弘及び海辺石塚群	上畑 島根	室町～戦国	寛政に3層あり、5層の宝印塚が彫刻されている。また、小さい塔に般若、釈迦、木楽像が彫刻されている。釈迦像にあるため、彩色が一部に残る。奥側右側に穴穿5基と空輪を欠く五輪塔や、前方に石塚群がみられる。		市定跡		69 C-4
76	浄土の五輪塔	萩町 新藤 浄土	戦国	寺縁動大友氏の所を対峙にあつた浄土寺跡に近世以降の石造地蔵とともにも建つ。塔高約80cm。	天正4 (1576)	市有形 (正統 類)	13	6-3 69
77	秋神社石塚群	萩町 新藤 宮園	戦国	秋神社境内の奉納品で浄土の大イソノ前前に建つ自然石の塚群がある。石形で2系統を数つ。このほかにも五輪塔地蔵がみられる。				69 C-3
78	野野原(安林寺)の 経塚と馬辺石塚群	萩町 南内 野野原	戦国	野野原野田公園下の田の間に塚群と宝印塚が並んで建つ。塚群は高さ約210cm。塔頭は石造で、2本の柱の上側に礎石をつくる。		市有形 (図庫)		69 C-5
79	塚山宝篋年塔	萩町 馬場	戦国～近世初期	馬場の住持匠師の族墓の墓庭に建つ。塔身四方に宝篋印堂を彫る。四隅は八角は高直り立つが、宝篋・宝輪は磨崖化されている。元々彫られたものも、一部に宝篋印堂と五輪塔の形をもちつた塚群をもつ塚群があり、墓前に「海辺御門二重大徳塔門口」の刻銘がみえる。			13	69 H-4
80	法蔵庵石塚	津波 法蔵庵	戦国～近世初期	法蔵庵に宝篋印堂と五輪塔の形をもちつた塚群をもつ塚群があり、墓前に「海辺御門二重大徳塔門口」の刻銘がみえる。				69 A-6
81	下塚田の経塚	下塚田 松尾	南北朝	久住川に流れる住吉川開の石橋を南岸に清くそびえ立ちたりに二重の板橋がある。礎石には梵字を刻み彫りしている。		市有形 (図庫)		69 B-6
82	城原八幡宮玉石塚 群	下塚田 神楽	戦国	城原寺境内の真五社の小社の前に、石塚の八角形をもち宝印塚宝篋印堂の上に集まっている。				69 B-6
83	松尾石塚	下塚田 下塚田	戦国	山中の神社跡にある穴穿の石塚である。塚頂から笠まで石を置ける穴穿の石塚である。奥部に石造の礎石を築き、その上に五輪塔の形をもちつた塚群がみられる。				69 B-6
84	染原墓地石塚群	染原 染原	戦国	染原墓地にみられる宝印塚基礎の上に石塚の塚群があり、その上に宝印塚の塔の形がある。このほかにも五輪塔塚群がみられる。				69 B-7
85	横字津石塚群	横木 横字津	南北朝～戦国	西側から西に続く尾根上に石塚群がある。宝篋・笠があり、上部に五輪塔の形をもちつた塚群がみられる。穴穿の礎石には二重輪塔に輪塔の形が彫り残されている。	徳元 (1379)	A-6		69 A-6
86	シヨウホウイン跡 石塚群	平田 折立	戦国～戦国	塚の上に石塚群が積み重ねられている。本来は石塚が多量に存在していたが、60年前に崩壊したところを再築し直して立てられている。奥側・墓前に円相の穴穿石塚の形をもちつた塚群がみられる。				69 B-8
87	折立板碑	平田 折立	戦国～近世初期	塚の上に石塚群が積み重ねられている。本来は石塚が多量に存在していたが、60年前に崩壊したところを再築し直して立てられている。奥側・墓前に円相の穴穿石塚の形をもちつた塚群がみられる。	永禄3 (1560)	B-8		69 B-8
88	小仲尾の石塚群	平田 小仲尾	戦国	石塚群の中央に円相石塚がみられる。奥側に石塚群がみられる。奥側に石塚群がみられる。奥側に石塚群がみられる。	天文11 (1542)	市有形 (石塚)		69 B-8
89	上置口石塚群	今々 上置口	戦国	塚の上に石塚群が積み重ねられている。奥側に石塚群がみられる。奥側に石塚群がみられる。奥側に石塚群がみられる。	天文14 (1547)	C-8		69 C-8
90	南光寺跡板碑	平田 平田	近世初期	南光寺跡北西尾根北側にある板碑である。奥側に石塚群や二重輪の表板はなく、塔の上に円相とその下に石塚群がみられる。				69 D-7
91	南光寺跡五輪塔	平田 南光寺	室町	南光寺跡にある五輪塔であり、水輪に刻銘がある。	弘永23 (1416)	B-7		69 D-7
92	日吉神社石塚群	熊田町 坂折	南北朝～戦国	日吉神社参道があり、石塚は参道の中ほど西側に集まる。その他は社殿の南西側奥部に宝篋印堂と五輪塔群がみられる。このほかにも石塚群がみられる。				69 D-8
93	松原石塚	赤井 台	戦国	水田畔に単立である石塚である。寧ろ近世の紀年銘がみられる。近世のものであることがわかるが、書風の半戦国期のものである。方角も西側に在り、その形も古く彫刻されている。				69 E-7
94	岩瀬屋前宝印塚 宝塚と馬辺石塚群	岩瀬 岩瀬	南北朝～戦国	岩瀬寺境内の一角に集まる石塚群がみられる。岩瀬土岸を欠失している以外に穴穿の宝印塚で層塔の形に刻銘がみられる。このほかにも石塚群がみられる。	文和3 (1354)	市有形 (宝篋 印堂)		69 E-8
95	浄土殿宝印塚	六井道 六井道	戦国	近世・近代墓地に相対する頂部に穴穿宝印塚が単立で存在し、その間に宝篋印堂がみられる。				69 F-7
96	渡瀬祖殿石塚群	渡瀬 綱原	戦国	穴穿を欠く五輪塔に石塚群がみられる。石塚群は石塚群を築き彫り刻銘されている。				69 F-7
97	後藤第一石塚群	石塚 藤原山	戦国～近世初期	後藤家の宅地に明治10年建立の石塚群がみられる。塔高73cm。				69 G-5
98	虎崎前寶印塚	岩本 河原立	戦国	田道の西側に宝篋印堂の型と墓塚・墓域が10mほど離れて建つ。墓域には「本願寺の門徒住持敬白 詔文明十七年乙丑月廿四日誌之」の刻銘がある。	文明17 (1485)	H-7		69 H-7
99	台小野石塚	岩本 台小野	戦国	塚の上に石塚群が積み重ねられている。奥側に石塚群がみられる。奥側に石塚群がみられる。奥側に石塚群がみられる。				69 H-8
100	長原石塚群	長原 長原	戦国～近世初期	長原の山頂に石塚群がみられる。奥側に石塚群がみられる。奥側に石塚群がみられる。奥側に石塚群がみられる。				69 A-1
101	敬念寺板碑	長原 長原	戦国	敬念寺の西側に板碑がみられる。板碑は板碑に刻銘がみられる。奥側に石塚群がみられる。奥側に石塚群がみられる。奥側に石塚群がみられる。				69 A-1
102	中村石塚群	中 中村	戦国	穴穿によればここに建てられたという。本来は五輪塔と宝篋印堂がみられる。奥側に石塚群がみられる。奥側に石塚群がみられる。奥側に石塚群がみられる。				69 A-2
103	榎木の地蔵塔	平田 折立	室町	塚の上に石塚群が積み重ねられている。奥側に石塚群がみられる。奥側に石塚群がみられる。奥側に石塚群がみられる。	徳正2 (458)	市有形 (石塚)		69 B-1
104	榎木の多宝塔	平田 折立	南北朝～室町	榎木寺と小学校跡のすぐ西側の石塚群と見られる場所に単立で存在する穴穿の石塚である。		市有形 (宝篋 印堂)		69 B-1
105	菅生寺跡石塚群	平田 折立	南北朝～近世初期	塚の上に石塚群が積み重ねられている。奥側に石塚群がみられる。奥側に石塚群がみられる。奥側に石塚群がみられる。	印永17 (1410)	B-1		69 B-1
106	鬼田板碑	横木 鬼田	戦国	塚の上に石塚群が積み重ねられている。奥側に石塚群がみられる。奥側に石塚群がみられる。奥側に石塚群がみられる。	永禄12 (1569)	B-1		69 B-1
107	山口家墓地板碑	三宅 カウマ	戦国～近世初期	山口家墓地に建てた。墓域を加工し、碑頭に梵字がみられる。				69 A-3



番号	名称	所在地	造立時期	概要	在线留言の 年号	指定 区分	参考 文献	掲載 地図 番号
108	小坂板碑	三七 小坂	戦国～近世初期	遺跡地の西側に竪を築き、下部が欠損した板碑を置いている。碑面の円形穴を彫り込め尊像を彫刻している。前面の掘込工事で発見されたと伝えられている。				62 A-3
109	大蔵神社古瓦葺印塔	三七 坂上	戦国	神社境内の北側の石砌の欄に宝篋印塔基礎の上に笠が逆さにせられてる。				62 A-3
110	家古板碑	三七 家古匠	戦国	家屋の跡地に草敷で立つ板碑である。碑身上部に円筒を彫り込み尊像を彫刻し、碑首に刻銘をみられる。	天正12 (1584)			62 A-3
111	藤木成所 キリシタン墓	徳木 成所	近世初期	竹田中学校敷地の北側の近基壇に於て造立する。				62 B-2
112	岡田石塔碑	林田 岡田	戦国～近世初期	基壇の頂上に石塔・宝篋印塔が置かれ、欄は宝篋印塔基礎の上にあり、上部の円筒内に、下に刻銘がある。宝篋印塔は尊像が上らがある。				62 B-2
113	工藤家五輪塔	林田 三本松	戦国	工藤家の西側、道路際に五輪塔基礎がある。				62 B-4
114	内蔵寺石塔	下木	戦国	寺の中部に充存の石塔がある。各部位高角に成形し、欄四面に仏像を彫り、等上部の中部に欠け字跡を刻み、円筒下に刻文を彫っている。	天文18 (1549)	高野形		62 B-1
115	妙見寺不動観音仏	会々 上下木	鎌倉?	妙見寺境内の草屋を覆覆りに作り込んだ石製の尊像があり、正面留面に180×130cmの尊像があり、高さ120cmの半円筒の基壇が彫られている。				62 B-2
116	会々磨崖仏	会々	鎌倉・室町?	下河原の北側崖面に千手観音(高さ約110cm)・多羅天・聖徳太子像・風化の甚しい不詳像がある。				62 B-2
117	西光寺石塔碑	会々 下木	近世初期	同筆印塔臺主中川清成の碑、次級及び母中川家の女性の墓塔。五輪塔・宝篋印塔の大規模石塔が基壇。	慶長17(1612) 寛永10(1635) 享保5(1626)			62 C-2
118	竹下園科院石塔	新瀬町 竹下園科院	南北朝	新瀬町にある灯台石塔に再利用された堂舎あるいは堂屋の礎石基礎であったと推定されている。刻銘が彫られている。	寛永9年 (1332)			62 F-1
119	跡内石塔	元来 跡内	戦国	石塔上に近世以降の土台とともに、石塔基礎が突如遺跡跡の礎石基礎として置かれていた。石塔基礎は四角に仏像が溝く彫刻されている。				62 F-1
120	吉田藤田石塔	台田 藤田	戦国	吉田八幡神社の古蹟境内に打ち込まれた石塔が立つ。西側に彫られた基壇・扉・土台のみであり、中台以上は失われ、実際の代わりに五輪塔臺基壇が置かれたとされている。				62 F-1
121	中川神社石塔	石田原 山下	戦国	中川神社境内を登ると頂上で見折れる。少し先の右側に手水鉢として置かれた石塔の礎石が彫られている。先に成例し、土台を置いた。				62 B-1
122	留置寺開隆寺中川 家墓地石塔群	会々 城北町	近世初期	留置寺の西側の武蔵に於ける留置寺3体がある。右から留置寺尊像坐像・聖尼坐像・妙尊尊像石塔坐像。	慶長5 (1600) ?			62 C-2
123	留置寺宗光三尊坐 尊像磨崖仏	会々 城北町	花丸期?	留置寺の西側の武蔵に於ける留置寺3体がある。右から留置寺尊像坐像・聖尼坐像・妙尊尊像石塔坐像。				62 C-2
124	各地区墓地区域碑	林田 谷	戦国	林田集会所の西北西370mの墓地区域にある。下部は塚中に埋まることが、現状で幅40cm、高さ70cm、厚さ180cmほどである。				62 C-3
125	万里の南石塔群	林田 万里の巻	戦国～近世初期	遊説の行き止まり。尾根を昇った平地に戦国～近世初期の紀年をもつ宝篋印塔がみられ、欄(厚さ3cm)中央に宝篋印塔2体がある。宝篋印塔一方近世初期の形をもつが、近世のものである可能性が高い。	慶長3(1598) 天正2(1574) 慶長9(1604) 慶長11(1607) 享保18(1633)			62 C-4
126	通見家石塔群	林田 川内谷	南北朝	宝篋印塔の礎材と磨崖の礎材が置かれている。宝篋印塔基礎は伏拝型があり、欄の周縁に刻銘がみられる。磨崖は聖母点・菩薩聖母点が残る。				62 C-3
127	喜多屋神石塔	林田 喜多屋跡	戦国	個人宅の庭に置かれていた石塔であり、久保町から移されたものと伝えられている。身体各部の造形が巧みである。	永享13 (1370)			62 D-2
128	キリシタン訓置 礼拝堂	竹田 2044	近世初期	福原宗右衛門の遺跡跡に、高さ3m、幅3.5mの煉瓦造の四角の礎石を築き込んでいる。基礎は茶色の彩色が施されている。キリスト教の時代のもの。				62 D-2
129	片ヶ瀬西郷石塔群	片ヶ瀬 久良久、門	戦国	公園を整え込み二箇所所に石塔群がみられる。実用印塔は磨崖にあり、戸次城跡に於てあったものを移したと伝えられている。				62 E-3
130	菅原キリシタン 墓群	門田 菅原	近世初期	工藤家跡跡の山頂一帯の近世初期にキリシタン墓群がみられる。				62 G-1
131	内津寺石塔群	門田 菅原	戦国	寺の中部、池の南側、本堂の南側に高野形石塔がある。宝篋印塔の上に五輪塔の空輪が置かれ、佛に宝篋印塔・五輪塔・石塔宝篋印塔を置いたとされている。				62 G-1
132	福向石塔群	門田 菅原	戦国	広原家宅の北西側、尾根頂上に宝篋印塔群・五輪塔群・角堂の礎・塔角などがみられる。				62 G-1
133	菅原石塔群	門田 菅原	戦国	石塔群が置かれているが、組合せが異なる。基礎(地輪)には刻銘がみられる。				62 H-1
134	石塔群	八田 牧	戦国	塚跡の一帯に石塔群が置かれている。五輪塔の空輪は彫刻され、実用印塔も一部を欠く。				62 H-2
135	露出キリシタン墓	八田 露出	近世初期	3基の礎石に代りにキリシタン墓17基がみられる。刻印をもつ長方形の碑刻・彫刻、「井」・「十」の刻印ももつ長方形の礎石のみみられる。				62 H-2
136	後藤家前五輪塔	辰野 柏原 長井水	戦国	後藤家宅の角に五輪塔基礎が石が彫り置かれている。				76 A-3
137	瓜作五輪塔群	辰野 紀宗 瓜作	戦国	瓜作の湯原水利施設の角にセメントブロックで造られた塔の中に磨崖とともに彫られている。				76 A-4
138	西福寺石塔	辰野 柏原 西福寺	戦国	西福寺境内の三ツ又路筋に祀られている。欄と磨崖を兼ねている。佛身は月輪を彫刻し、その中に刻銘があり、佛の彫刻は、欄の上部に2体ずつ尊像を彫く彫刻している。			13	76 A-5
139	東福寺石塔と周辺 石塔群	辰野 柏原 東福寺	室町～戦国	東福寺境内に市街部の石塔と石塔群が置かれている。石塔には「大永六丁丁表文」の刻がある。宝篋印塔や石塔。堂平く、欄は下に置かれている。竹田に伝来したとされている。欄に刻銘がみられる。中に刻銘が彫られている。	大永7 (1527)	市街形 (石塔)	13	76 B-4
140	田代大高塚の 六地蔵	辰野 柏原 田代	南北朝～戦国	大高氏宅内にセメントブロックの墓群を作り、その上に石砌の礎石のみ置かれている。礎石には刻銘に2体ずつ尊像を彫く彫刻している。				76 B-5
141	海浄宗聖地宝篋 印塔	九成野 小川宮	戦国	浄土宗の聖地の南側に宝篋印塔の1基が置かれている。				76 B-4
142	二保石塔	九成野 二保	戦国	丘陵斜面に充存の石塔がある。各部位高角に成形し、欄四面に彫刻が彫られる。上部の4隅に仏像がある。	長祿4 (1462)	市街形 (石塔)		76 F-3
143	藤木石塔群	九成野 藤木	戦国	藤原の出入り口付近に石塔群・地蔵と石塔基礎・草の上に宝篋印塔の礎石と磨崖の佛身が置かれている。草二面に磨崖がみられる。地蔵の磨崖に宝篋印塔の礎石と空輪が彫られている。高野形には近世初期の遺構1基。				76 E-5
144	福田公民館裏庭 印塔	辰野 柏原 福田	中世	福田公民館裏庭の上に置かれた石塔。新基壇とともに立つ。				76 A-6



番号	名称	所在地	遺立時期	概要	在籍資料 の年号	指定 区分	参考 文献	掲載 地図 番号
145	無量寺五輪塔	次倉 次倉	戦国	寺の入り口右手の敷地境畔付近に近世石造物と共に五輪塔部材が置かれている。				76 A-7
146	塚家宝篋印塔	次倉 次倉	戦国～近世初期	家人宅の庭に宝篋印塔の相輪と笠が置かれている。山から移されたと思われている。				76 B-6
147	瀬ノ口石鐘と周辺 石塔群	次倉 瀬ノ口	戦国	石角を備する宍存の石鐘である。平正面には上部に円筒がみられる。背面には 彫の紋様がみられ特異である。この石鐘の側に五輪塔部材が置かれている。				76 B-6
148	中角石鐘	中 中角	戦国	笠から下が落下した状態の石鐘がある。四角に彫成され、鼻部に三面に六地 蔵と一面に観音像と両輪塔が刻まれている。				76 D-7
149	野口公民館石鐘	神原 野口	戦国	野口公民館前に笠及び上を欠く石鐘が西部に立ち、東側に五輪塔部材が置かれて いる。石鐘等には彫刻がみられる。	享禄 5 (1532)			76 C-8
150	井出ノ上石鐘	神原 井出の上	戦国	高野山に伝説する石鐘の複製であるが、真鍮が北面に直径の約80cm東面に移動した といわれている。石鐘は単四面に梵字の刻字があり、大神一徳が来世の徳兼浄 土への願いを込めた逆相塔であることがわかる。	永正 17 (1520)	農有形 (石鐘)		76 E-7
151	吐合石鐘	神原 吐合	戦国	高嶺に宍存の石鐘が単独で立つ。各部とも方形に成形し、平の上部に尊像隣側 や円柱内に梵字刻字を入れている。尊像隣側下には彫刻がみられる。	享禄 2 (1529)			76 E-8
152	藤原堂五輪塔群	神原 畑	戦国～近世初期	藤原堂の東南部に庚申塔群と五輪塔がある。				76 E-7
153	埴石鐘	神原 畑	戦国	水田中の稲に単独でみられる笠以上を欠く石鐘である。各面方形に成形し、平 正面側には尊像 2 体を雕刻し、その下に彫刻がみられる。	大永 3 (1523)			76 E-7
154	阿弥陀堂石鐘	大田 畷出	戦国	宝珠の一部を欠失しているのみで、完形の石鐘であり、各部位を方形に成形し ている。平に彫付線を印刷し、梵文を刻んでいる。宝珠の一部が欠損してい る。				77 A-1
155	大田政所 キリシタン墓	大田 政所	近世初期	霧山キリシタン墓の南西500m、首領・渡邊家等 5 世等の墓地があり、伏籠がみ られる。うち1基には「十」の刻字がある。				77 A-2
156	小野キリシタン墓	森木 小野	近世初期	十角川に架かる東門橋の南東100mにある。現代の墓地の中に戦国時代の墓をも つ新しい墓が 2 基あり、背後に伏籠 3 基が南北に並ぶ。				77 C-1

### 「第1集 分布図・地名表編(上)」正誤表

頁	誤	正
例言 3	なお、これを縮尺し5万分の1にした。	(削除)
26～29	日出市	日出町
95～185		
153		

177	輪田家墓地五輪 塔群	赤生 門田	戦国～近世初期	近世以降の墓地に五輪塔部材が置かれている。				73 E-6
178	五十川家五輪塔群	赤生 門田 瀬田	戦国	山腹の急斜面に狭い平地を造作し、五輪塔を並べているが、組み合わせは本 宗のものではないであろう。			赤有形 (五輪 塔)	73 E-6

塔形及び體数																			
五輪塔				宝篋印塔				宝塔				国康塔	板碑	一石五輪塔	無縁塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形
光存	空黒輪	火輪	水輪	地輪	光存	相輪	笠	塔身	基礎	基礎	光存								
2																			
		1	1															1	
																		1	
			1	1														1	
																		1	
																		1	
1	1																		
																			伏黒12
																			伏黒3

	10	3	5																
	2	2	2	3															

## 参考文献

- 1 志賀義夫『白丹村ニ於ケル寶篋印塔ノ研究』1937
- 2 中野種徳『豊後国直入郡牧民記』豊日史学会 1957
- 3 北村清士『竹田市の金石文 第1集』竹田市教育委員会 1967
- 4 武石繁次『日田金石年表 上巻』1973
- 5 望月友壽『大分の石造美術』木耳社 1975
- 6 内滝克彦・甲斐素純『九重町石造物資料』九重町教育委員会 1979
- 7 狭間町誌編集委員会『狭間町誌』1984
- 8 久住町『久住町誌』1984
- 9 直入町誌刊行会『直入町誌』1984
- 10 湯布院町誌編集委員会『町誌 湯布院』1989
- 11 庄内町誌編集委員会『庄内町誌』1990
- 12 大分県教育委員会『大分県の文化財』1991
- 13 萩町『萩町史』1991
- 14 直入町教育委員会『直入町の文化財 ふるさと文化財プロムナード』1992
- 15 日田市教育委員会『惣田遺跡』1994
- 16 前津江村教育委員会『前津江の文化財 華四載』1986
- 17 田北廣雄『豊後直入町松牟礼城田北一旅』1995
- 18 久住町教育委員会『久住町の文化財』1995
- 19 大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館『石造文化財の保存対策のための概要調査』1996
- 20 上津江村教育委員会『上津江の文化財 (四)』1997
- 21 内海克彦『日田地方の石造美術』『二豊の石造美術』17 1997
- 22 日田市教育委員会『牧原遺跡』1997
- 23 園田瑞峯『庄内町石造文化財写真集 (改定版)』1997
- 24 天瀬町教育委員会『あまがせの文化財』1998
- 25 狭間町教育委員会『狭間町の文化財 第三集 石城地区の文化財』1998
- 26 狭間町教育委員会『狭間町の文化財 第四集 出布川地区の文化財』1999
- 27 日田市教育委員会『元宮遺跡』2000
- 28 狭間町教育委員会『狭間町の文化財 第五集 狭間地区の文化財』2000
- 29 玖珠町教育委員会『玖珠町史』2001
- 30 中津江村教育委員会『中津江村の文化財』2002
- 31 狭間町教育委員会『狭間町の文化財 第六集 谷地区の文化財』2002
- 32 原田昭一『板碑集成 (その3、豊後北部 附、補遺) -豊前・豊後における紀年銘を有する整形板碑について-』『古文化談義』第50号 九州古文化研究会 2003
- 33 原田昭一『板碑変遷史-豊前・豊後における紀年銘板碑を通して-』『古文化談義』第51号 九州古文化研究会 2004
- 34 竹田の歴史と文化を考える会『みどころ 竹田の文化財』2004
- 35 原田昭一『中世における石造物流通の様相 -「玄正(玄聖)」銘宝篋印塔の流通を通して-』『日引』第7号 石造物研究会 2005
- 36 山村高啓『私たちの萩町史』2005
- 37 内藤克己『大野川中上流域の石幢』『二豊の石造美術』25 2006